



文部科学省 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成

2016年度企業向け調査結果

2017年3月

本調査にご協力をいただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

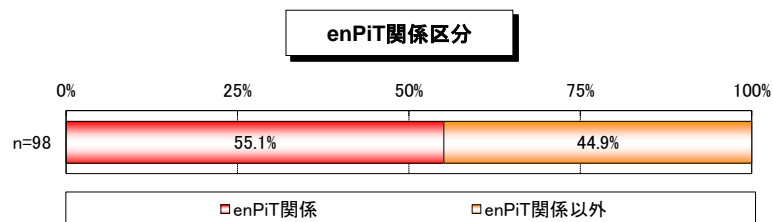
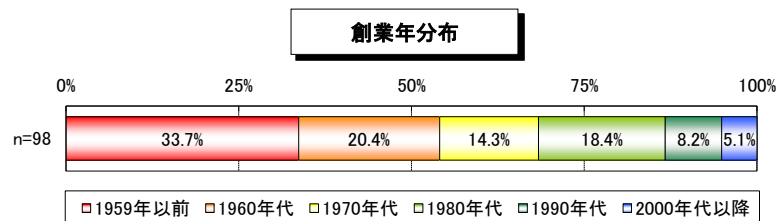
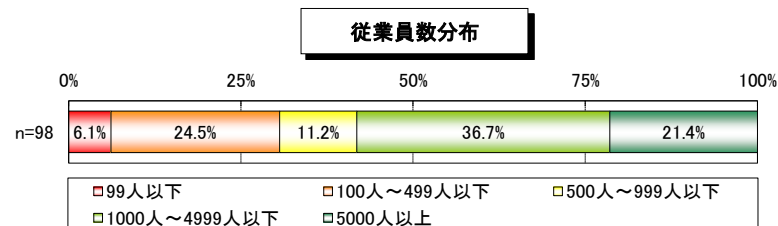
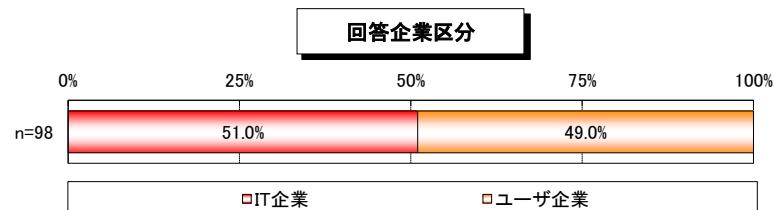


Education Network for Practical Information Technologies

2016年度企業向けアンケート調査の概要

本調査では、enPiT修了生の受入先となる可能性があるIT企業及びユーザー企業の人事部門(新卒採用担当者)に対するアンケート調査を実施し、情報系出身者に対する評価のほか、enPiTの認知度やenPiTの教育内容に対する印象等を尋ねた。

対象者条件	enPiT修了生の受入先となる可能性のある企業 (IT企業企業及びユーザー企業) 1,000社
調査方法	書面で送付する郵送アンケート
調査期間	2017年2月1日(水)～2017年2月17日(金)
回収率	回収数98件 (回収率 9.8%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新卒採用及び中途採用の重視度 ・ 情報系専攻者に対する期待 ・ 情報系大学院での実践教育に対する関心 ・ 第1期enPiTの認知度／認知経路 ・ 第2期enPiTの認知度 ・ enPiTの教育内容等に対する印象・意見 ・ enPiT修了生の採用についての興味 ・ enPiTに対する期待や要望

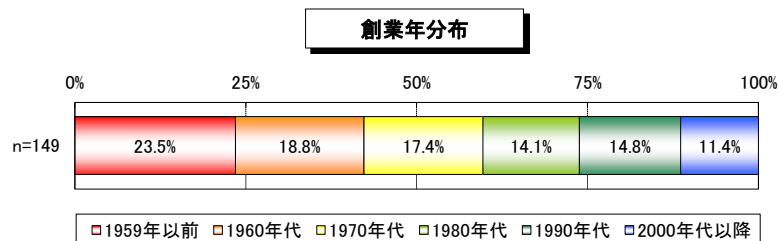
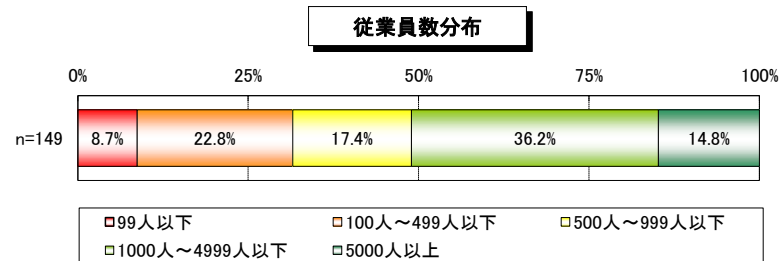
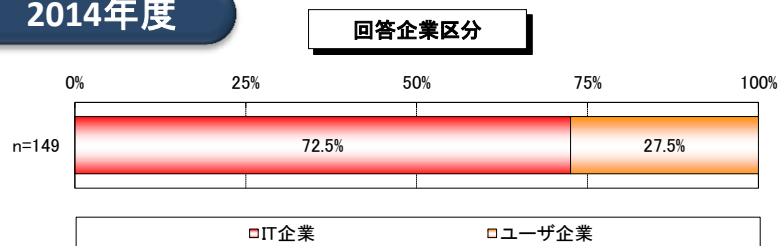


※ 本調査では、業務の一部を、みずほ情報総研株式会社に委託の上実施した。

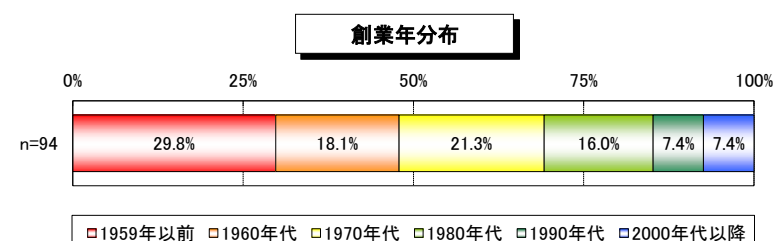
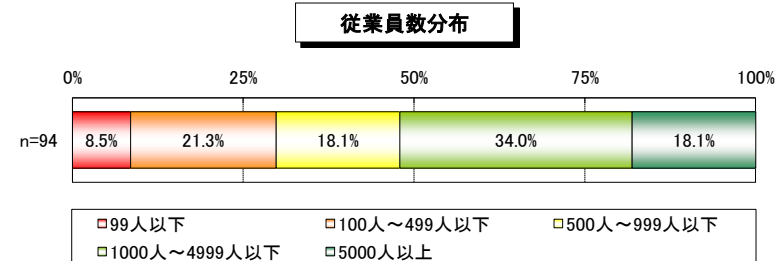
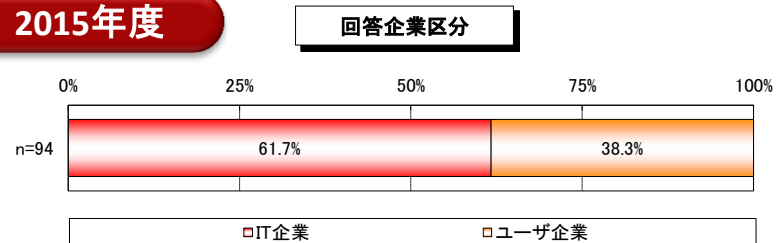
（参考）2015年度・2014年度回答企業との比較

本調査は、昨年度（2015年度）、一昨年度（2014年度）も実施しているため、回答結果の分析においては、一部設問において過年度との結果の比較も行っている。以下には、参考までに、2014年度、2015年度の回答企業との属性の比較を以下に示す。今年度（2016年度）は、ユーザー企業の割合がやや高く、IT企業とユーザー企業が半数ずつとなっている。

2014年度



2015年度



■ 2016年企業向けアンケート調査結果のポイント

<今年度調査テーマ> 第2期enPiTに企業は期待しているか？

POINT1

第1期enPiT認知度は
過去最高の約5割へ



p.38
p.39

enPiTの認知度は、2014年度から年々上昇し、**2016年度は過去最高の約5割の企業がenPiTを認知。**回答企業の半数はユーザー企業であり、実質的にも高い認知度といえる。

POINT3

第2期enPiTは、第1期開始期を上回る認知度をすでに達成



p.42
p.43

学部生向けの第2期enPiTの認知度は**26.4%**となり、第1期enPiTの開始期(2014年度時点)での24.8%を上回る結果となった。第1期enPiTの認知度が効果的に引き継がれている。

POINT4

第2期enPiT生への期待は「チームによる開発経験」、「積極性」、「先端技術」など



p.44
p.26

第2期enPiT生への期待は、「チーム開発経験」、「自主性・積極性」、「先端技術」、「高い技術力」など。**大学院生を上回る期待として、「基礎知識」「チャレンジ精神」**などが挙げられた。

POINT5

9割の企業が、第2期enPiTは「自社の要望に応える」と期待

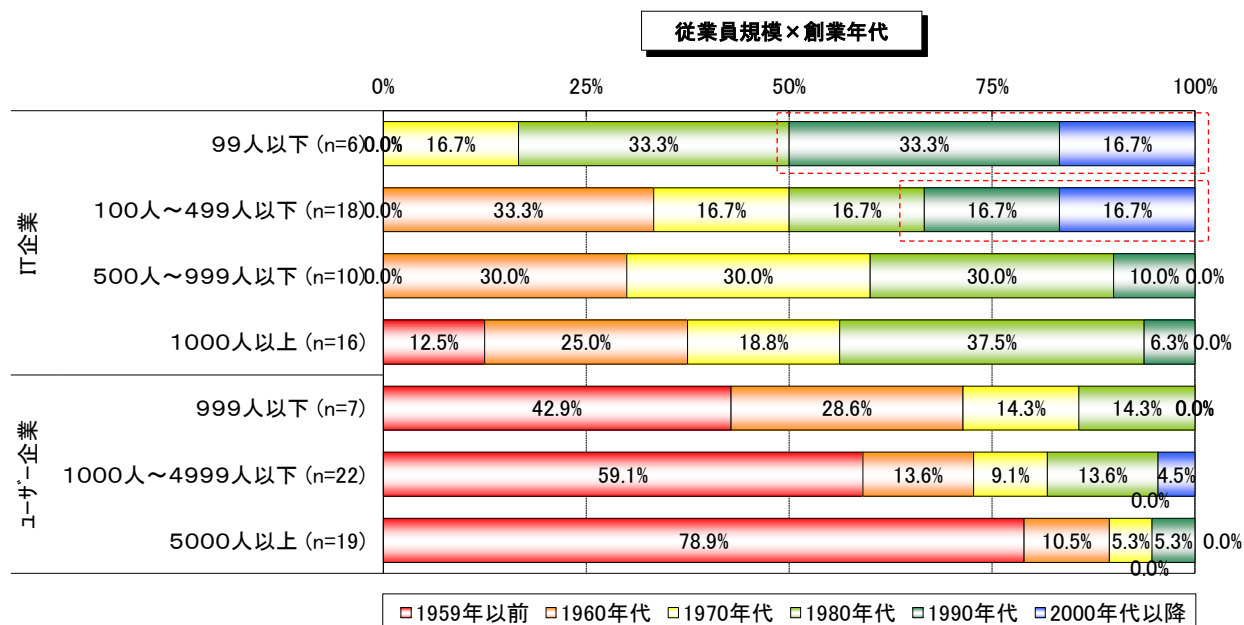


p.48
p.49

第2期enPiTは自社の要望に応える人材育成として有効かを尋ねた設問では、全体の9割の企業が「強く思う」「ある程度そう思う」と回答。

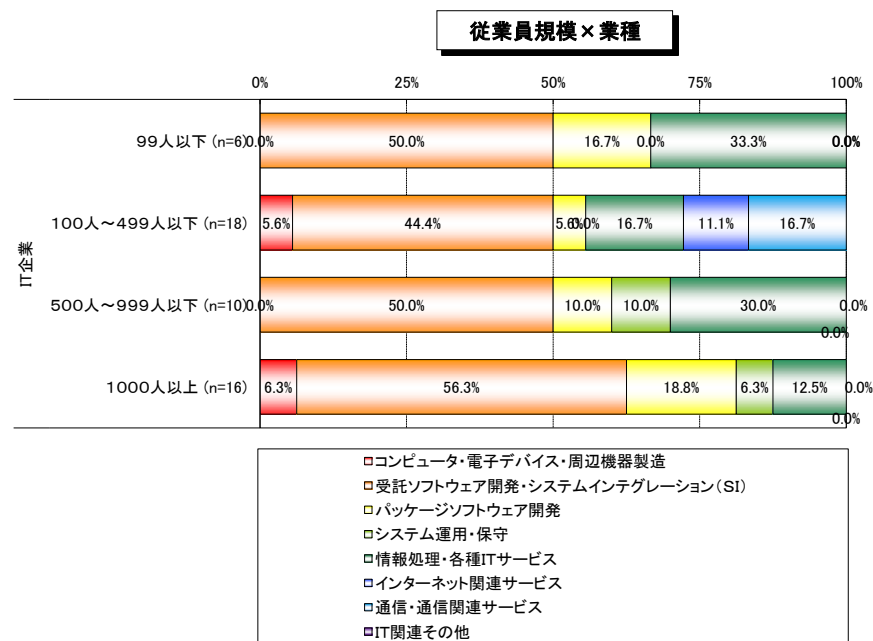
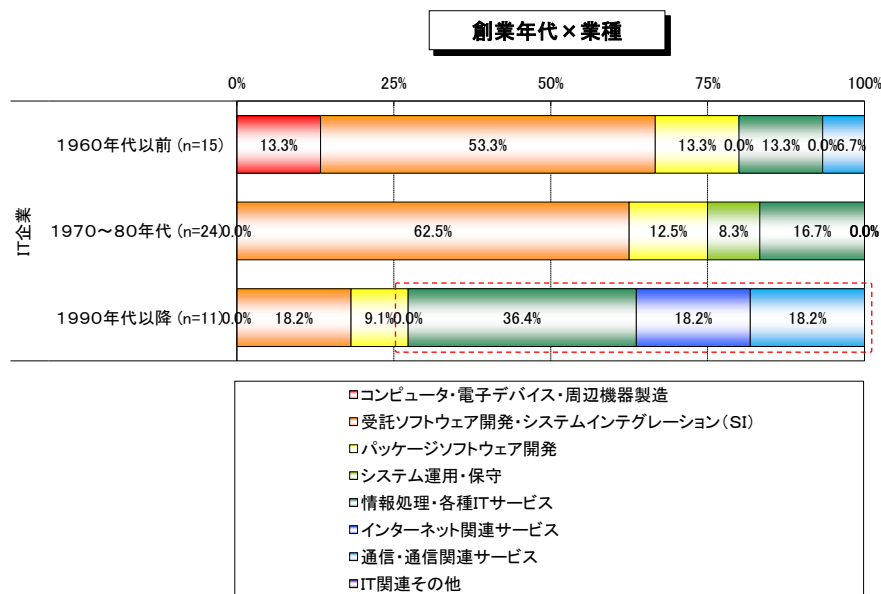
■ アンケート回答企業の属性①

- 本調査の回答結果の分析においては、回答企業を「IT企業」及び「ユーザー企業」に区分しているほか、下図のとおり、それぞれの企業をさらに「従業員規模別」及び「創業年代別」に区分している。また、enPiTの協力企業として参画している企業やenPiT修了生を受け入れた実績がある企業など、enPiTと何らかのつながりを有する企業を「enPiT関係企業」として「enPiT関係別」にも区分している。
- 下図のとおり、「IT企業」の従業員規模別の創業年代をみると、**従業員規模の小さい企業には、1990年代以降に創業された新しい企業(ITベンチャー等)が多く**、「99人以下の企業」では、全体の約3割が1990年代以降に創業された企業となっている。「100人～499人以下」の企業では、3割程度が1990年代以降に創業された新しい企業である。
- 「ユーザー企業」は、全体的に1960年代以前に創業された伝統ある企業が多い。



■ アンケート回答企業の属性②

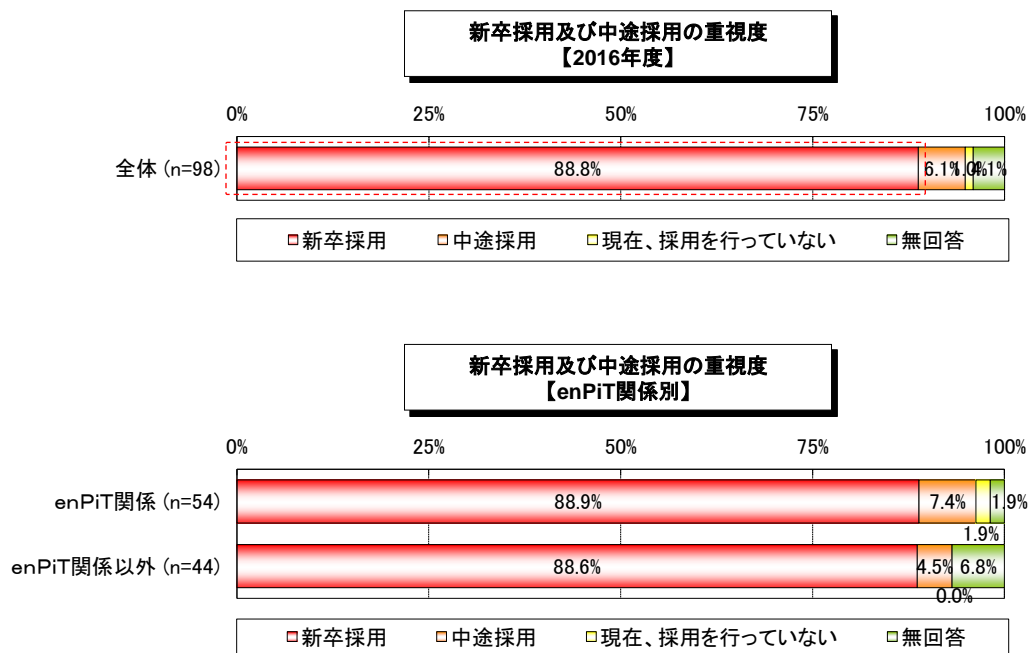
- 「IT企業」については、**創業年代別に業種区分の構成比が異なる**点に留意が必要である。
- 左図をみると、創業が「1960年代以前」、「1970～80年代」の企業は、「受託ソフトウェア開発・システムインテグレーション(SI)」が半数を超えている。これに対して、創業が「1990年代以降」の企業は、「受託ソフトウェア開発・システムインテグレーション(SI)」の割合は2割程度にとどまり、「情報処理・各種ITサービス」、「インターネット関連サービス」や「通信・通信関連サービス」の企業があわせて7割を超えている。
- 従業員規模別の業種区分を示す右図をみると、従業員規模にかかわらず多様な業種が含まれているが、**特に「100人～499人以下」の区分において、「インターネット関連サービス」、「通信・通信関連サービス」を手がける企業の割合がやや高い**ことが読み取れる。



■ 新卒採用及び中途採用の重視度

- 今年度調査の冒頭の設問において、調査対象企業では、新卒採用及び中途採用のどちらを重視しているかを尋ねた結果、**約9割の企業において、新卒採用のほうが重要と回答**している。
- enPiT関係企業／enPiT関係以外企業の区分でも、いずれも新卒採用を重視しているという結果であった。

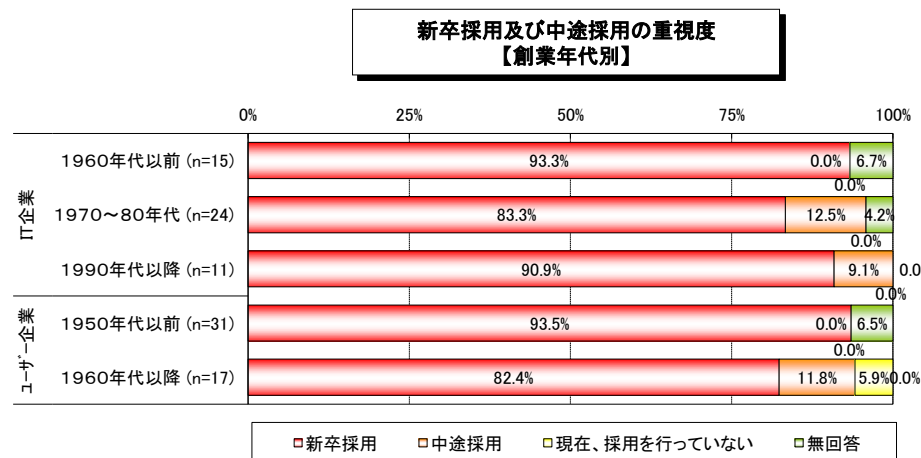
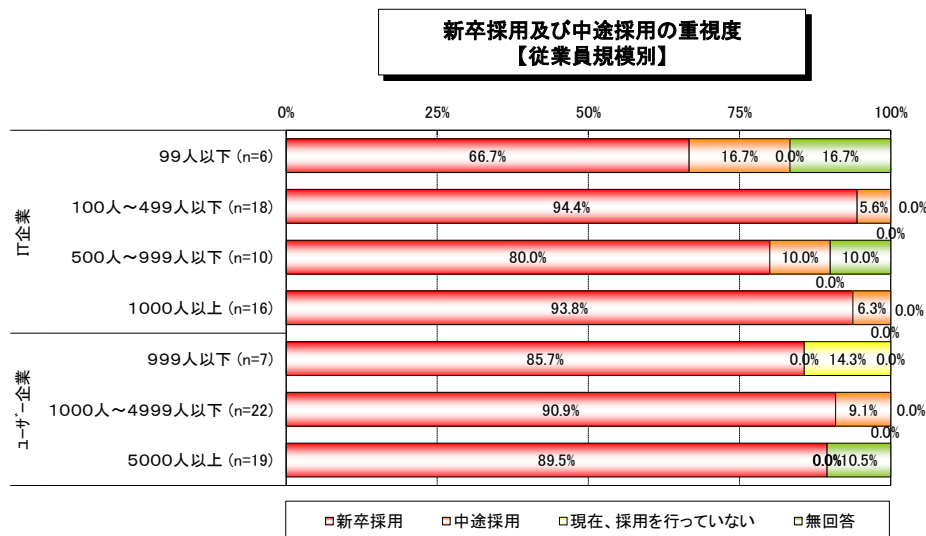
【問1】 貴社では、自社人材の採用にあたり、新卒採用及び中途採用のいずれをより重視していますか。



■ 新卒採用及び中途採用の重視度 【従業員規模別・創業年代別】

- 新卒採用及び中途採用の重視度に関する設問を、「従業員規模別」、「創業年代別」にみると、左図のとおり、「99名以下のIT企業」では新卒採用の重視度が7割を下回っており、小規模な企業では中途採用のニーズも比較的高いことが読み取れる結果となった。
- また、「創業年代別」(右図)をみると、「1960年代以前に創業のIT企業」、「1950年代以前に創業のユーザー企業」で新卒採用に対する重視度が高いという結果であった。他方、それ以外の企業では、中途採用に対するニーズもある。
- 全体としては、**創業が古く、従業員規模が大きい企業ほど、新卒採用に力を入れている**という傾向がみられる。

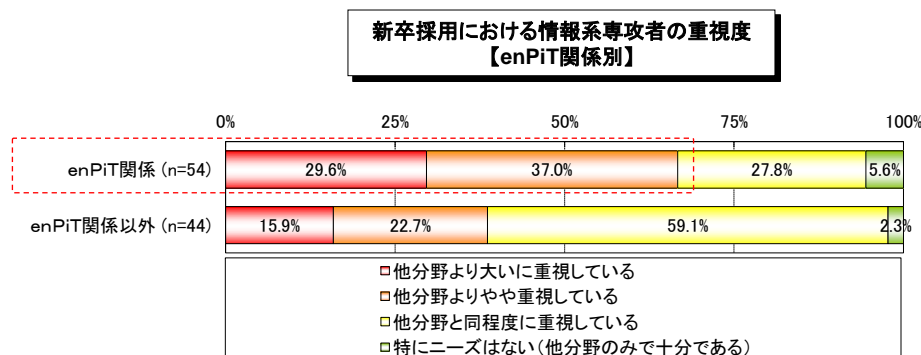
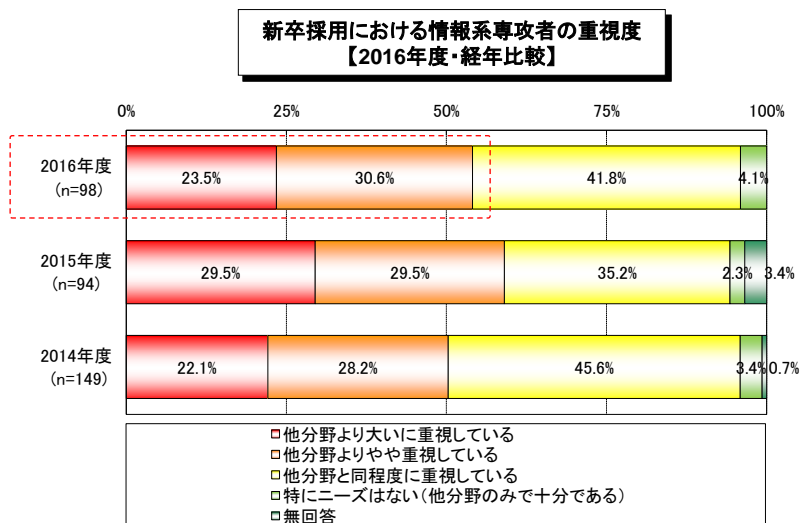
【問1】 貴社では、自社人材の採用にあたり、新卒採用及び中途採用のいずれをより重視していますか。



■ 新卒採用における情報系専攻者の重視度

- 調査対象企業の新卒採用において、情報系の人材の採用を重視しているかを尋ねたところ、左図のとおり、**約5割程度の企業が「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」と回答する結果となった。**
- また、enPiT関係企業／関係以外企業の区分では、enPiT関係企業のほうが、enPiT関係以外の企業と比較して**2倍程度「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」という回答が多くなっている。**

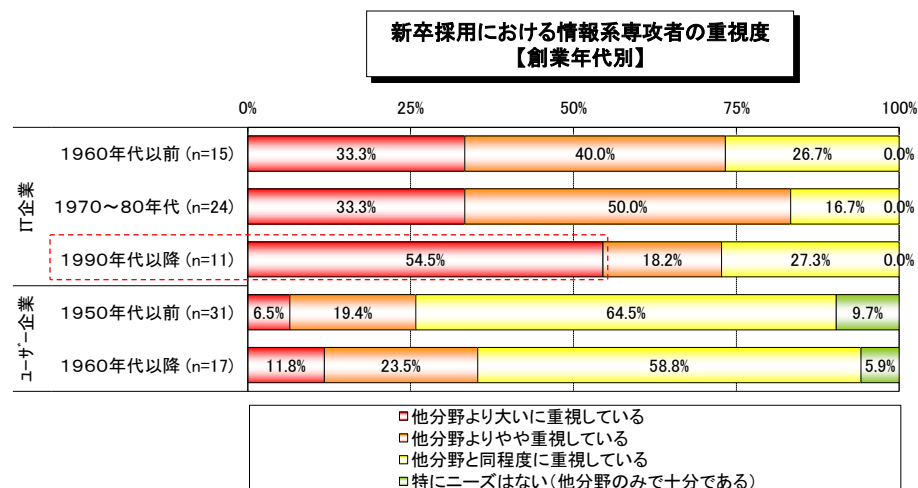
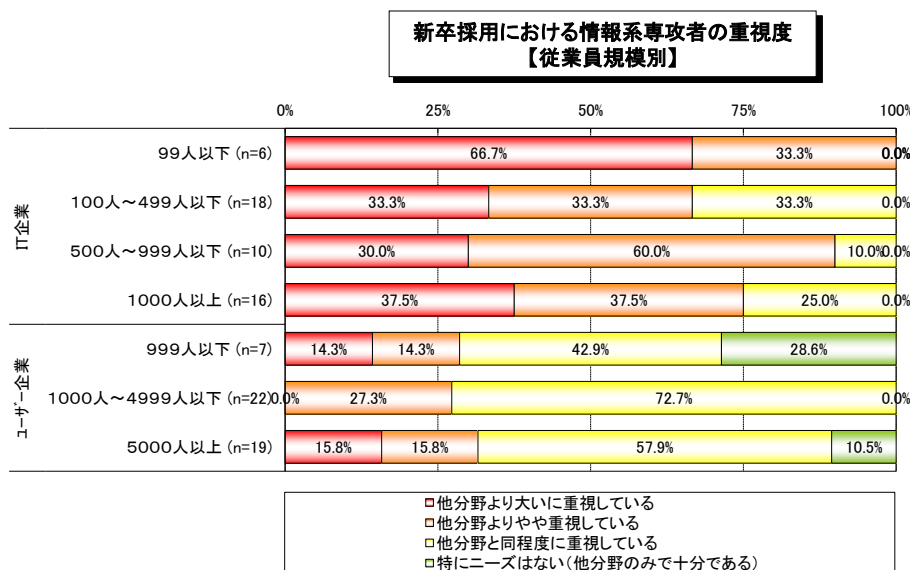
【問2】 貴社では、新卒採用において、理工系の情報系(IT系)分野を専攻した人材の採用を、他分野と比べて重視していますか。



■ 新卒採用における情報系専攻者の重視度 【従業員規模別・創業年代別】

- 新卒採用における「情報系」の重視度に関する回答を「従業員規模別」及び「創業年代別」にみると、左図のとおり、「99名以下のIT企業」については、「他分野より大いに重視している」、「他分野より重視している」と回答した割合が100%となっており、「情報系」専攻者に対するニーズが非常に高いことがうかがえる。
- ユーザー企業では、従業員規模に関わらず「他分野より大いに重視している」、「他分野よりやや重視している」と回答した割合は3割程度であった。
- 創業年代別にみると、IT企業、ユーザー企業ともに、「**他分野より大いに重視している**」と回答した割合は、**創業年が比較的新しい企業ほど高い傾向がみられる**。

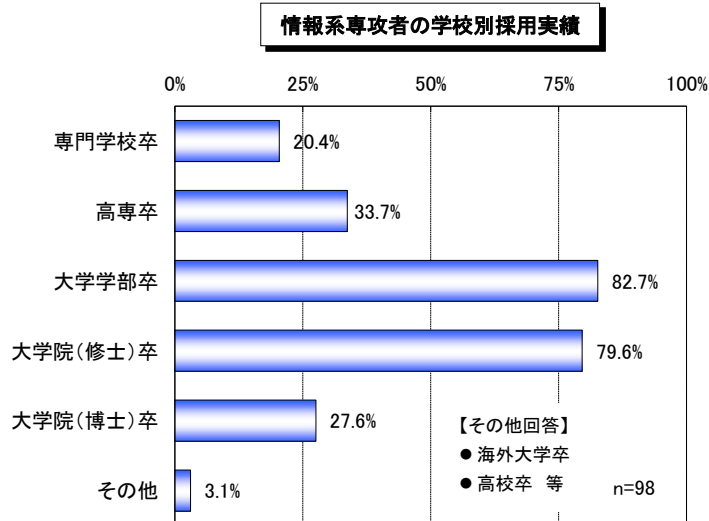
【問2】 貴社では、新卒採用において、理工系の情報系(IT系)分野を専攻した人材の採用を、他分野と比べて重視していますか。



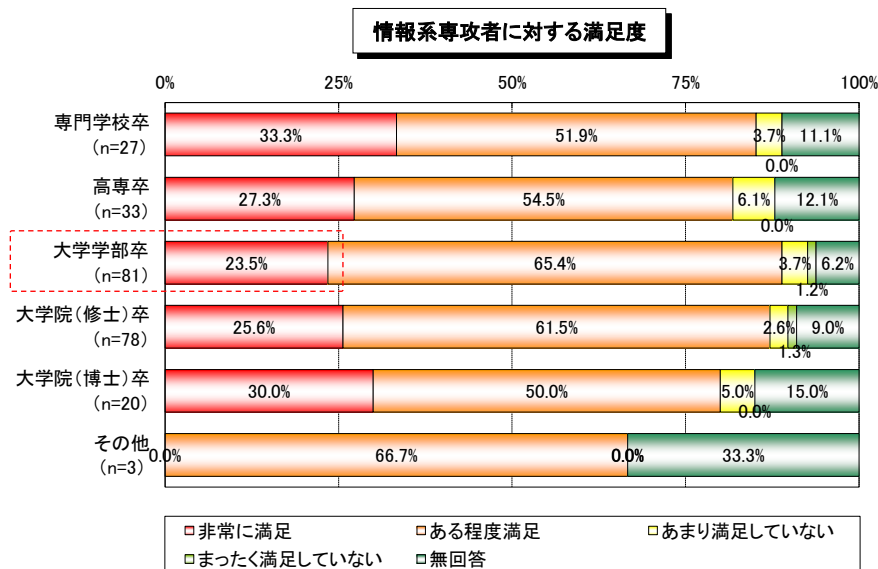
直近3年間の情報系専攻者の採用実績と満足度

- 直近の3年間の情報系専攻者の学校種類別の採用実績について尋ねた設問の結果(左図)をみると、8割程度の企業が、「大学学部卒」、「大学院(修士卒)」の採用実績があると答えている。
- また、直近3年間に採用された情報系専攻者に対する満足度を尋ねた設問(右図)では、「非常に満足」または「ある程度満足」と回答した割合がいずれもおおむね8割を越えており、**学歴を問わず、採用した情報系専攻者に対する満足度は比較的高い**ことがうかがえる。
- ただし、**大学学部卒の学生については「非常に満足」という回答が最も低くなっている点が注目される。**

【問3-1】 貴社では、直近3年間の新卒採用において、理工系の情報系(IT系)分野を専攻した人材を採用した実績がありますか。



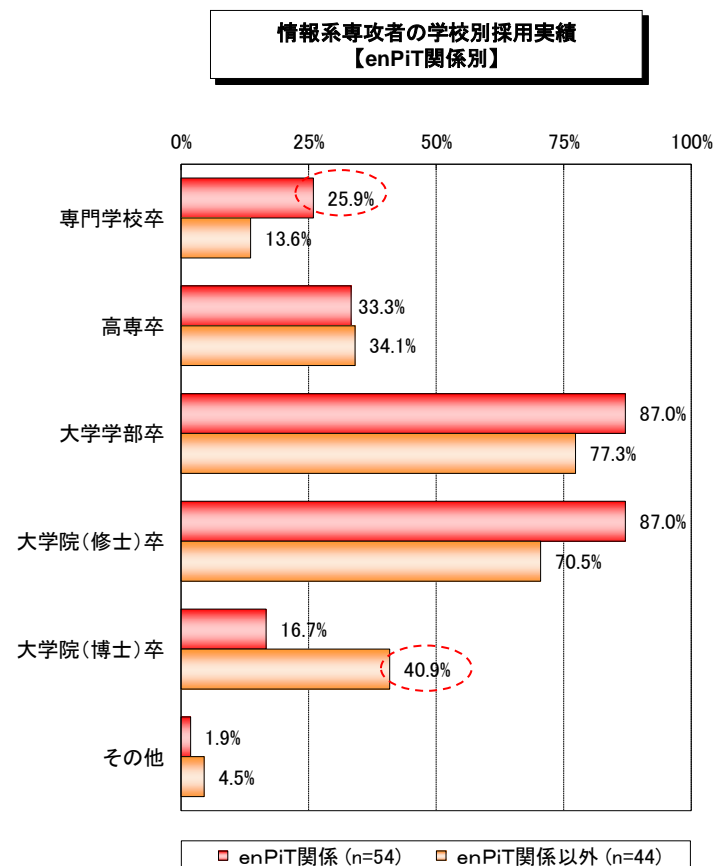
【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。



直近3年間の情報系専攻者の採用実績【enPiT関係別】

【問3-1】 貴社では、直近3年間の新卒採用において、理工系の情報系（IT系）分野を専攻した人材を採用した実績がありますか。

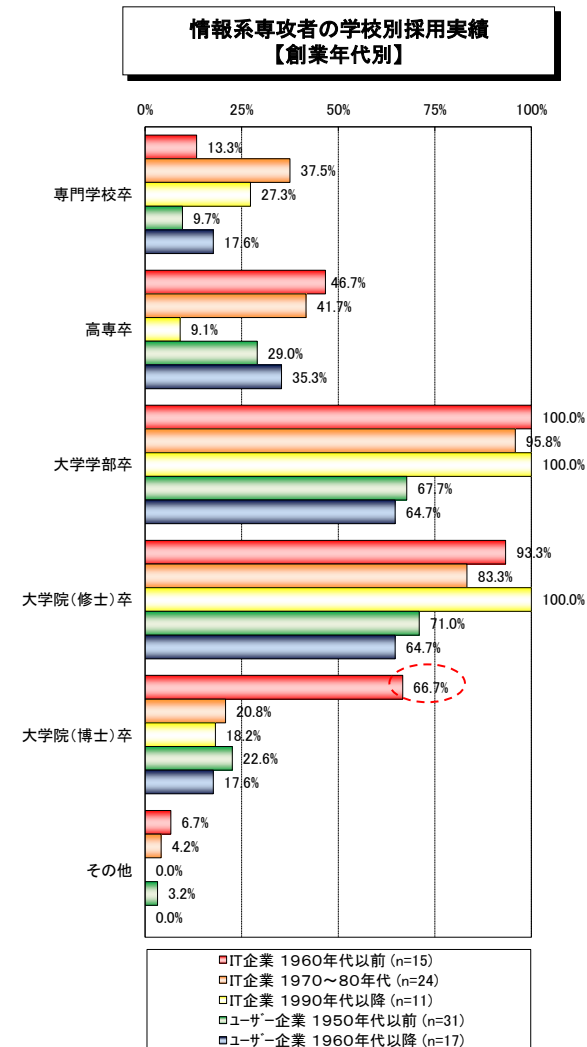
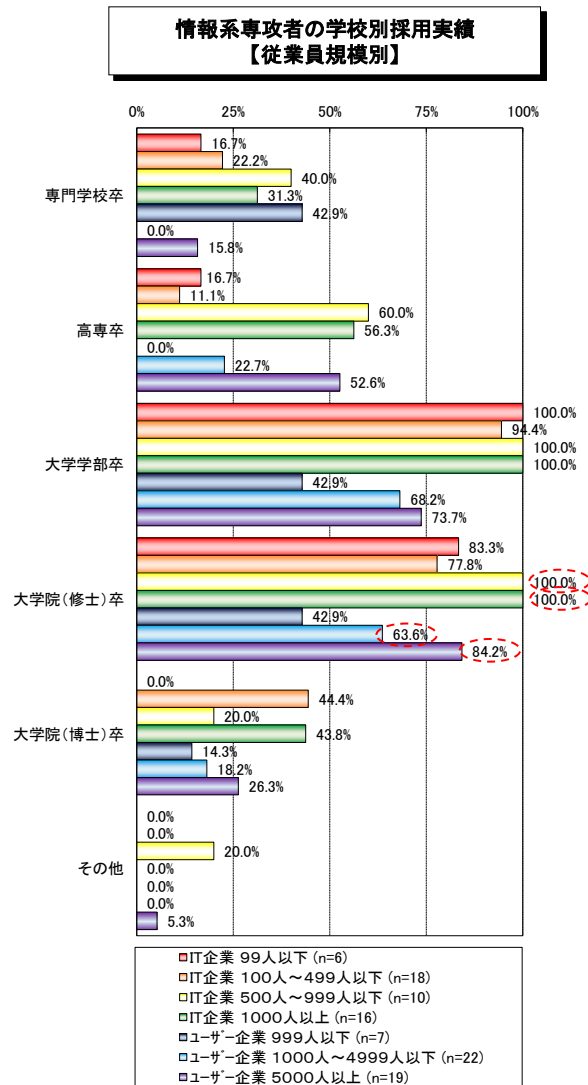
- 情報系専攻者の採用実績をenPiT関係企業／関係以外企業の区分で見ると、enPiT関係企業において「専門学校卒」、「大学学部卒」、「大学院（修士）卒」の実績が、enPiT関係以外の企業よりも多い。
- **enPiT関係以外の企業では、大学院（博士）卒の採用実績がenPiT関係企業よりも2割以上高くなっている。**



直近3年間の情報系専攻者の採用実績【従業員規模別・創業年代別】

【問3-1】貴社では、直近3年間の新卒採用において、理工系の情報系(IT系)分野を専攻した人材を採用した実績がありますか。

- 情報系専攻者の採用実績に関する回答を「従業員規模別」及び「創業年代別」にみると(左図)、「従業員規模別」では、IT企業・ユーザー企業ともに、**従業員規模の大きい企業のほうが大学院(修士)卒の情報系専攻者の採用実績がやや多い**という傾向がみられる。
- 「創業年代別」にみると(右図)、特に「1960年代以前に創業のIT企業」において、大学院(博士卒)の採用実績も高いなど、幅広い人材を採用しているという傾向が読み取れる。

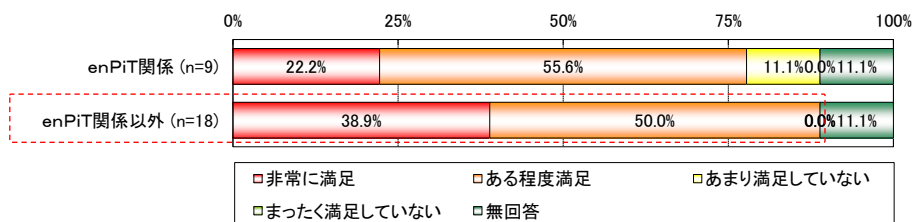


直近3年間の情報系専攻者に対する満足度【enPiT関係別】①

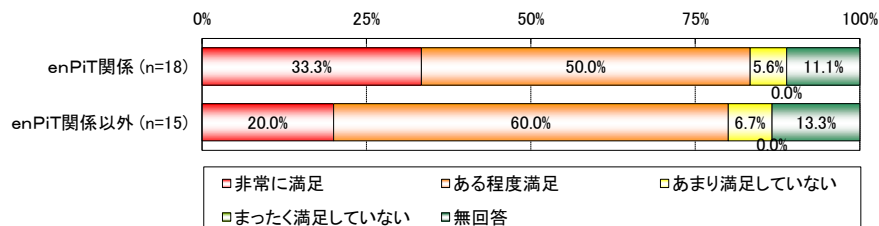
- 直近3年間の間に採用された情報系専攻者に対する満足度について、enPiT関係企業／関係以外企業の区分でみると、「専門学校卒」や「大学学部卒」について、「非常に満足」、「ある程度満足」と回答した割合は、**enPiT関係以外の企業のほうがやや高い**という結果になった。

【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。

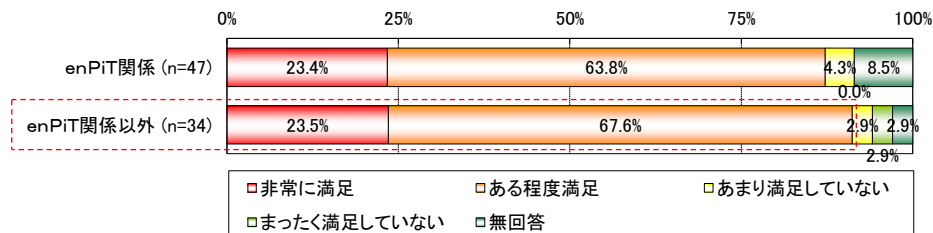
直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～専門学校卒～
【enPiT関係別】



直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～高専卒～
【enPiT関係別】



直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～大学学部卒～
【enPiT関係別】

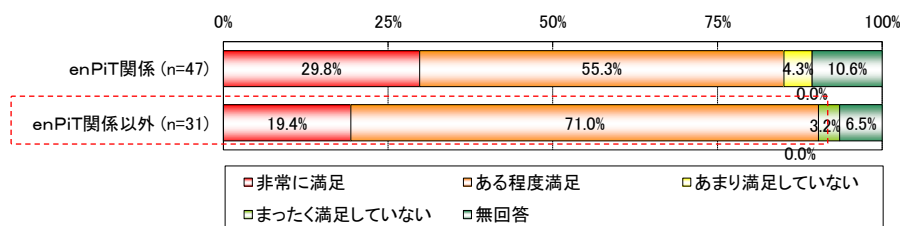


■ 直近3年間の情報系専攻者に対する満足度 【enPiT関係別】②

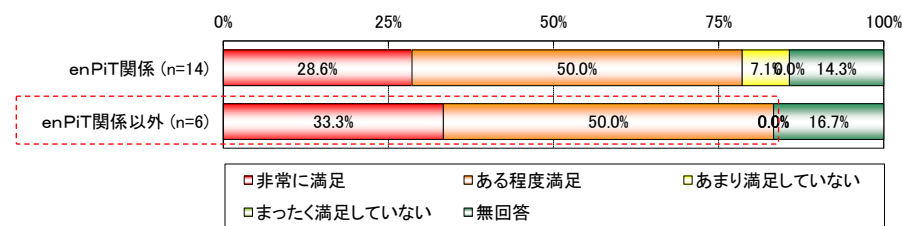
- 前頁に続き、直近3年間の間に採用された情報系専攻者に対する満足度について、enPiT関係企業／関係以外企業の区分で見ると、「大学院(修士卒)」や「大学院(博士卒)」についても、「非常に満足」、「ある程度満足」と回答した割合は、**enPiT関係以外の企業のほうがやや高い**という結果になった。

【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。

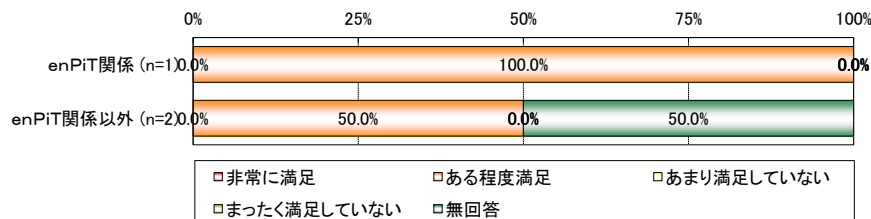
直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～大学院(修士)卒～
【enPiT関係別】



直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～大学院(博士)卒～
【enPiT関係別】



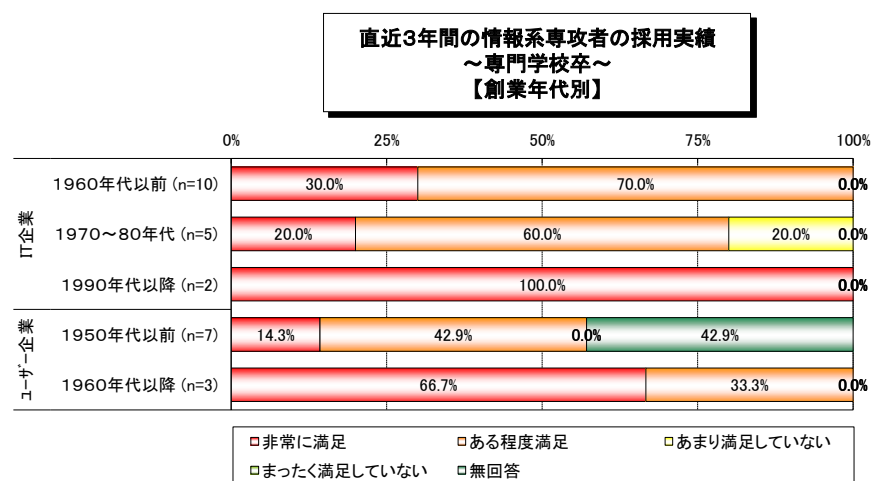
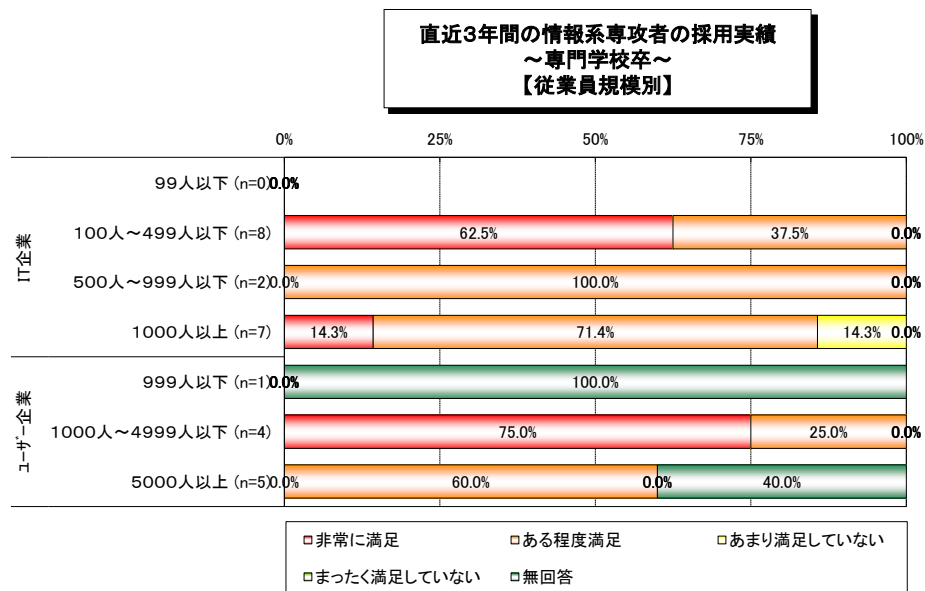
直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～その他～
【enPiT関係別】



直近3年間の情報系専攻者に対する満足度【従業員規模別・創業年代別】①

- 直近3年の間に採用された「専門学校卒」の情報系専攻者に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、「100人～499人以下のIT企業」、「1000人～4999人以下のユーザー企業」で「非常に満足」という回答が多くなっている。

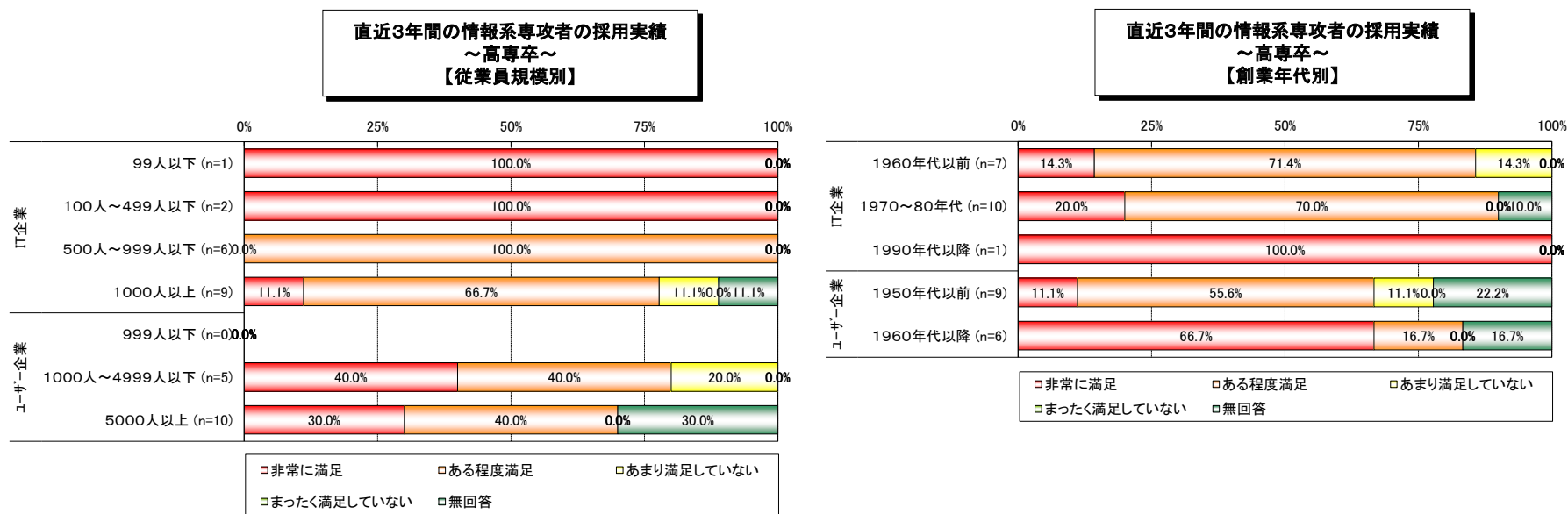
【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。



■ 直近3年間の情報系専攻者に対する満足度 【従業員規模別・創業年代別】②

- 直近3年の間に採用された「高専卒」の情報系専攻者に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、比較的従業員規模が小さい企業のほうが「非常に満足」という回答が多くなっている。
- また、「創業年代別」では、「専門学校卒」と同様に、比較的新しい企業において「非常に満足」という回答が多くなっている。

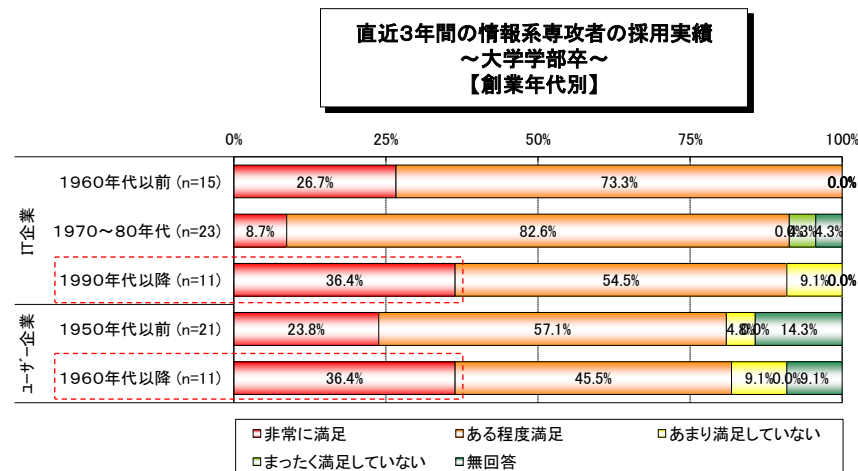
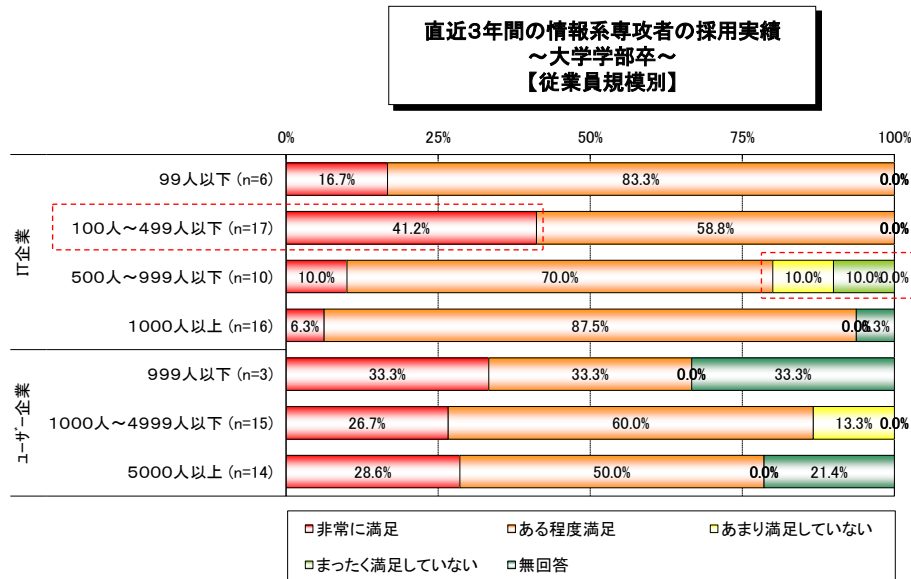
【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。



直近3年間の情報系専攻者に対する満足度【従業員規模別・創業年代別】③

- 直近3年の間に採用された「大学学部卒」の情報系専攻者に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、「**100人～499人以下のIT企業**」において「**非常に満足**」と回答した割合が**最も高くなっている**ほか、「500人～999人以下のIT企業」において「あまり満足していない」、「まったく満足していない」と回答した割合がやや多くなっている。
- 「創業年代別」では、IT・ユーザー企業いずれも比較的新しい企業のほうが「非常に満足」と回答した割合が高くなっている。

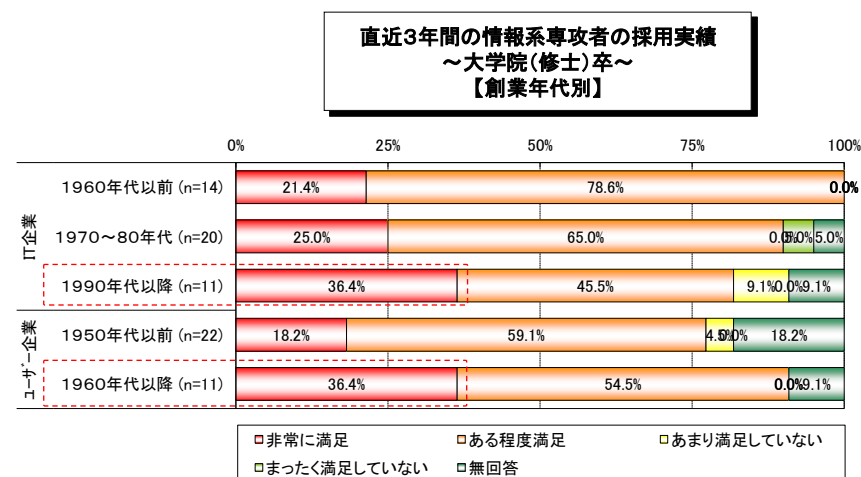
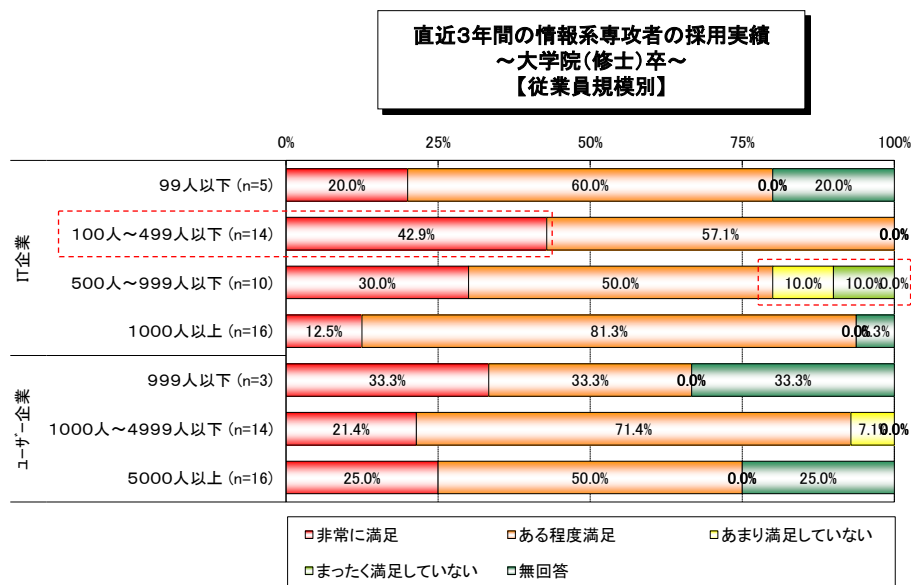
【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。



直近3年間の情報系専攻者に対する満足度【従業員規模別・創業年代別】④

- 直近3年の間に採用された「大学院(修士)卒」の情報系専攻者に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、「大学学部卒」と同様に、「**100人～499人以下のIT企業**」において「**非常に満足**」と回答した割合が**最も高い**ほか、「500人～999人以下のIT企業」において「あまり満足していない」、「まったく満足していない」と回答した割合がやや多くなっている。
- 「創業年代別」では、IT企業／ユーザー企業いずれも、**比較的新しい企業のほうが「非常に満足」と回答した割合が高くなっている**。

【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。

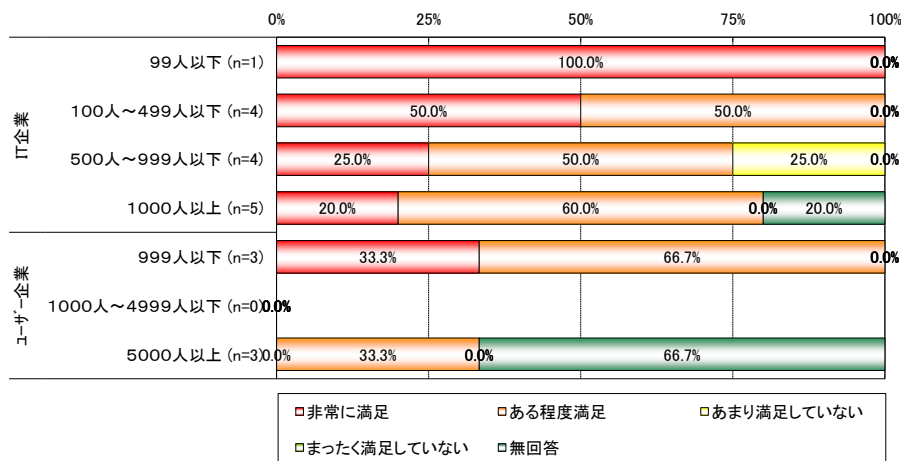


■ 直近3年間の情報系専攻者に対する満足度 【従業員規模別・創業年代別】⑤

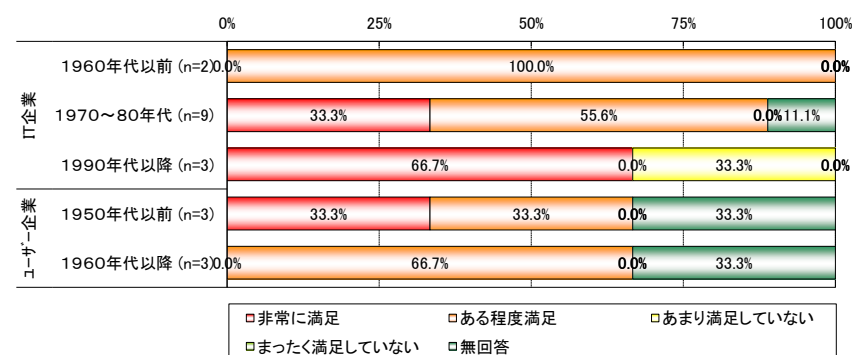
- 直近3年の間に採用された「大学院(博士)卒」の情報系専攻者に対する満足度について、「従業員規模別」、「創業年代別」に回答をみると、「従業員規模別」では、従業員規模が小さい企業のほうが「非常に満足」という回答割合が高いという傾向がみられる。

【問3-2】 貴社では、理工系の情報系(IT系)分野を専攻したそれぞれの人材に対して、どの程度満足していますか。

直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～大学院(博士)卒～
【従業員規模別】



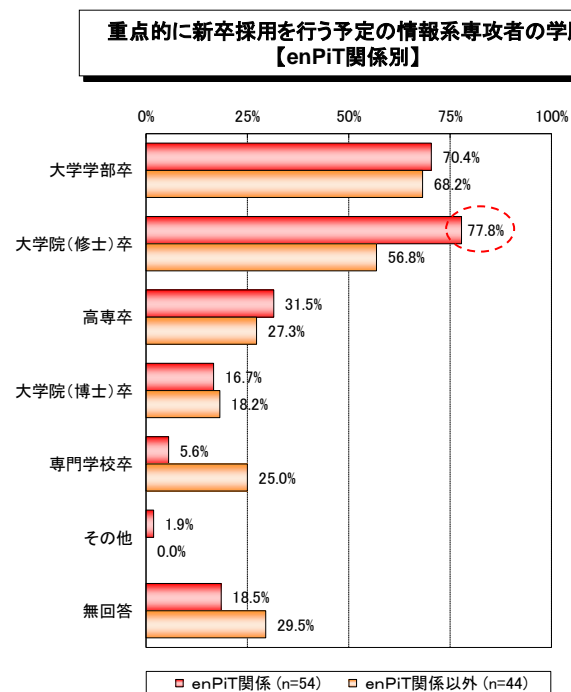
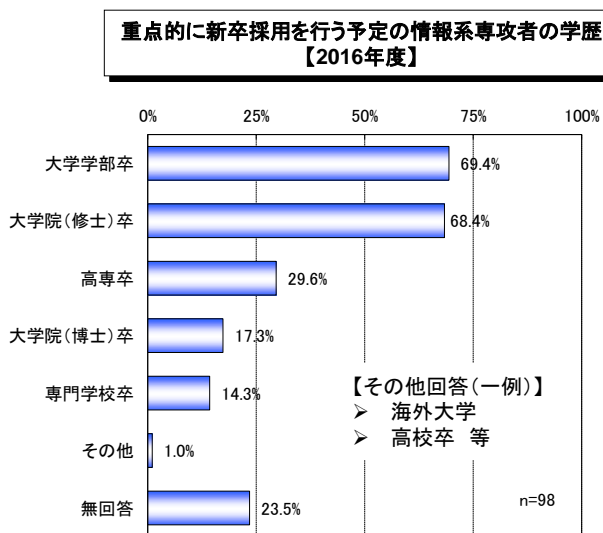
直近3年間の情報系専攻者の採用実績
～大学院(博士)卒～
【創業年代別】



重点的に新卒採用を行う予定の情報系専攻者の学歴

- 左図は、新卒採用において重点的に採用する予定の情報系専攻者の学歴を尋ねた設問の結果である。左図のとおり、「学部卒」及び「大学院(修士)卒」が7割近い回答を得ている。**第2期enPiTにおいて対象となる「大学学部卒」の情報系専攻者に対しては、第1期enPiTの主な対象であった「大学院(修士)卒」を上回るニーズがある**といえる。
- また、同様の結果をenPiT関係企業／関係以外で比較したところ(右図)、enPiT関係企業では「大学院(修士)卒」という回答の割合が高く、特に「大学院(修士)卒」の人材に対して非常にニーズが高いことが読み取れる。

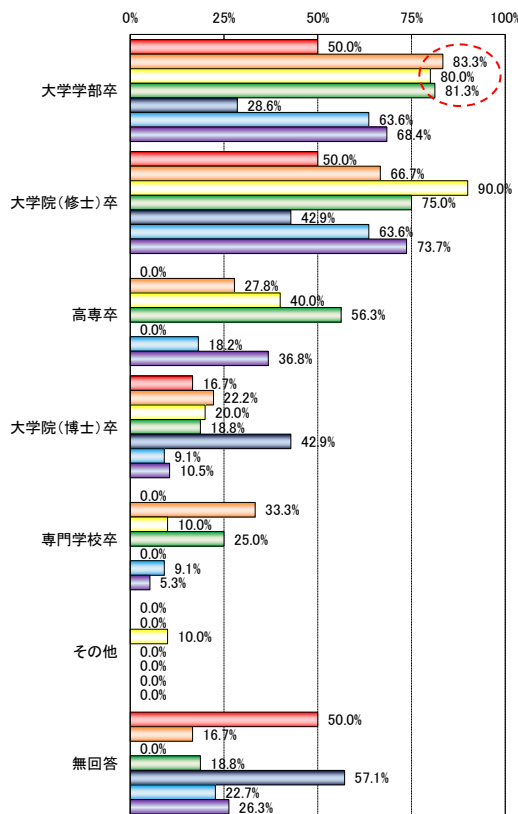
【問3-3】 貴社では、今後、新卒採用において、どのような人材を重点的に採用する予定ですか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。【複数回答可】



重点的に新卒採用を行う予定の情報系専攻者の学歴【従業員規模別・創業年代別】

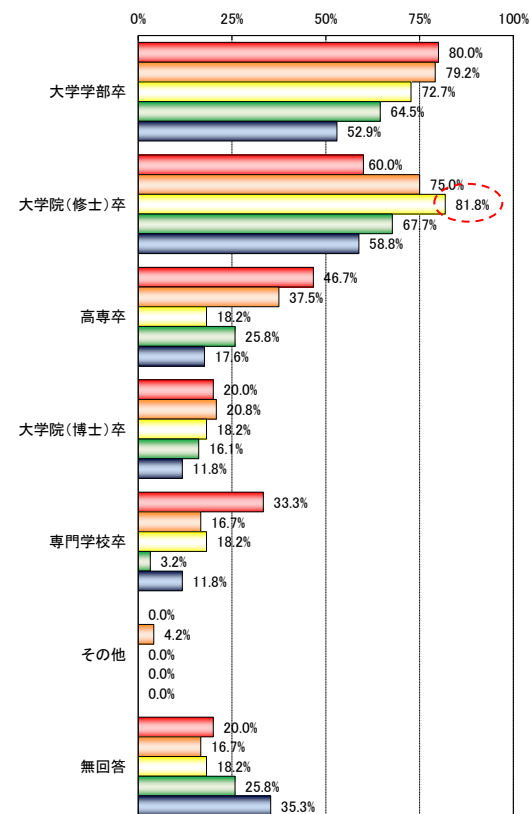
- 今後、新卒採用において重点的に採用する予定の情報系専攻者の学歴についての回答を「従業員規模別」にみると(左図)、**IT企業のうち従業員規模が100名以上の企業では、「大学学部卒」の回答割合がいずれも8割を超えている。**
- 「創業年代別」にみると(右図)、「大学学部卒」の情報系専攻者に対しては、IT企業、ユーザー企業のいずれも、創業年代が古い企業ほど回答割合が高くなる傾向がみられた。
- 「大学院(修士)卒」については、IT企業のうち特に創業年が1990年以降の企業の回答割合が高く、8割を上回っている。**

重点的に新卒採用を行う予定の情報系専攻者の学歴【従業員規模別】



IT企業 99人以下 (n=6)
 IT企業 100人~499人以下 (n=18)
 IT企業 500人~999人以下 (n=10)
 IT企業 1000人以上 (n=16)
 ユーザー企業 999人以下 (n=7)
 ユーザー企業 1000人~4999人以下 (n=22)
 ユーザー企業 5000人以上 (n=19)

重点的に新卒採用を行う予定の情報系専攻者の学歴【創業年代別】



IT企業 1960年代以前 (n=15)
 IT企業 1970~80年代 (n=24)
 IT企業 1990年代以降 (n=11)
 ユーザー企業 1950年代以前 (n=31)
 ユーザー企業 1960年代以降 (n=17)

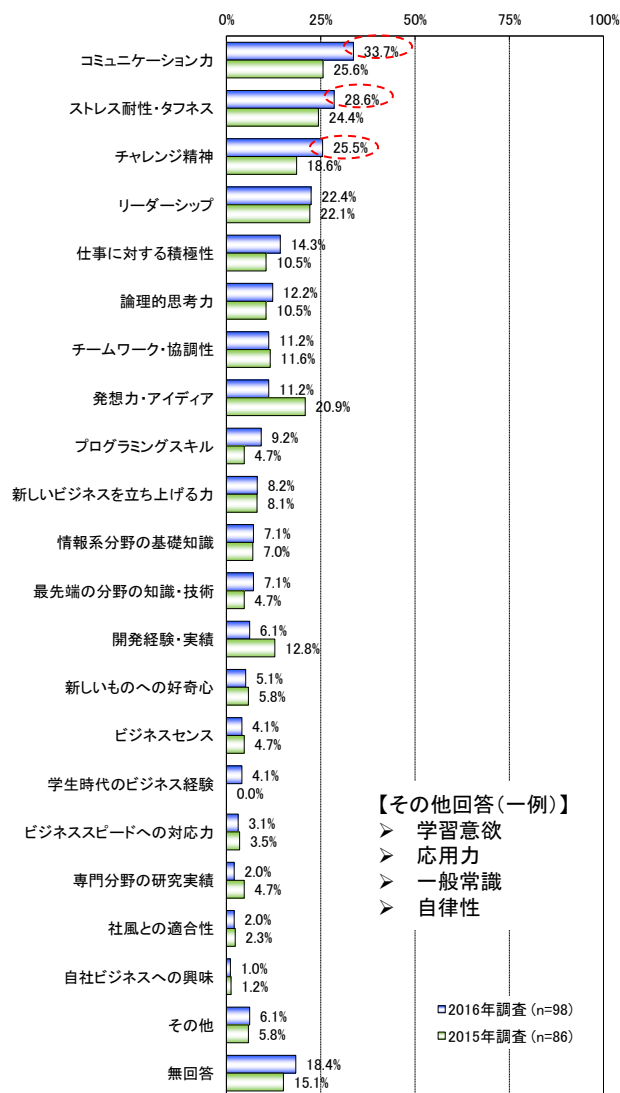
【問3-3】 貴社では、今後、新卒採用において、どのような人材を重点的に採用する予定ですか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。【複数回答可】

直近3年間に採用した情報系専攻者に特に不足していると感じる点

- 直近3年間で採用した情報系専攻者に不足している点を尋ねた設問では、「**コミュニケーション力**」、「**ストレス耐性・タフネス**」、「**チャレンジ精神**」、「**リーダーシップ**」、「**仕事に対する積極性**」が上位5つとなった。
- 「プログラミングスキル」や「専門分野の研究経験」、「情報系分野の基礎知識」等を不足していると回答した企業は1割未満となっており、情報系専攻者に期待されるこれらの点について不足を感じている企業は比較的少ないといえる結果となっている。
- また、2015年の調査結果と比較して、「**コミュニケーション力**」、「**ストレス耐性・タフネス**」、「**チャレンジ精神**」の項目は**増加傾向がみられる**。

【問4-1】直近3年間に貴社で採用された情報系分野の人材について、特に不足している(貴社が期待する水準に満たない)と感じる点は何ですか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

直近3年間に採用した情報系専攻者に特に不足していると感じる点
【2016年度・経年比較】

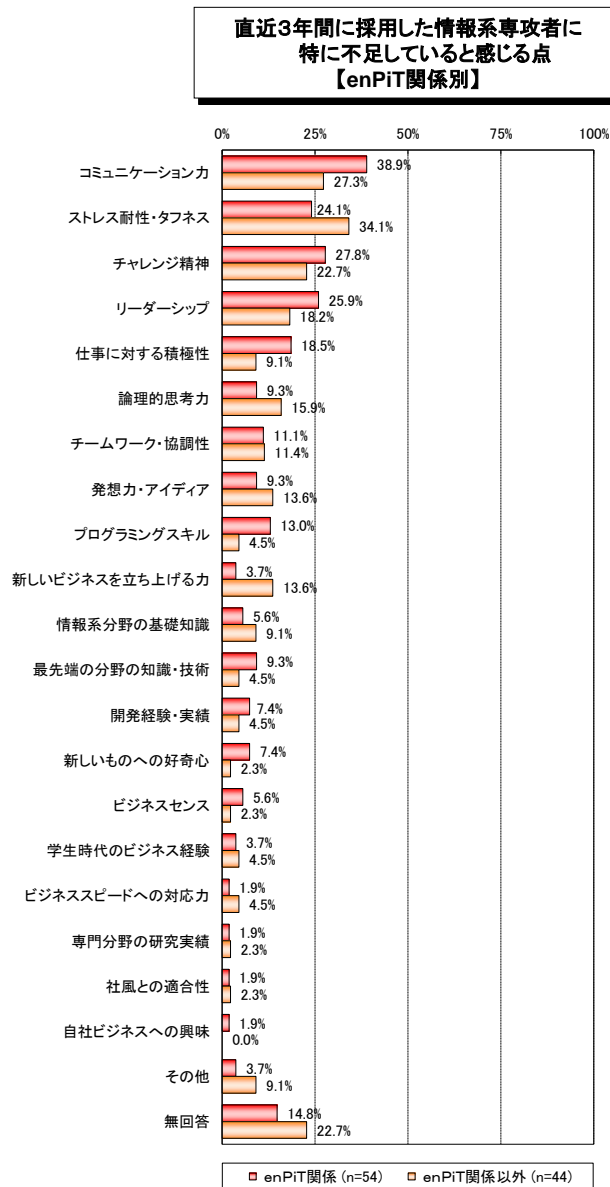


直近3年間に採用した情報系専攻者に特に不足していると感じる点

【enPiT関係別】

- 直近3年間で採用した情報系専攻者に不足している点をenPiT関係企業／関係以外企業の区分で見ると、enPiT関係企業では「コミュニケーション力」、「チャレンジ精神」、「リーダーシップ」、「仕事に対する積極性」、「論理的思考力」等に対して、enPiT関係以外の企業よりも回答が多くなっている。
- enPiT関係以外の企業では、「ストレス耐性・タフネス」と回答した割合が最も高く3割を上回っており、「論理的思考力」、「発想力・アイデア」、「新しいビジネスを立ち上げる力」等に関する回答についても、enPiT関係企業よりも回答が多くなっている。

【問4-1】直近3年間に貴社で採用された情報系分野の人材について、特に不足している(貴社が期待する水準に満たない)と感じる点は何ですか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。



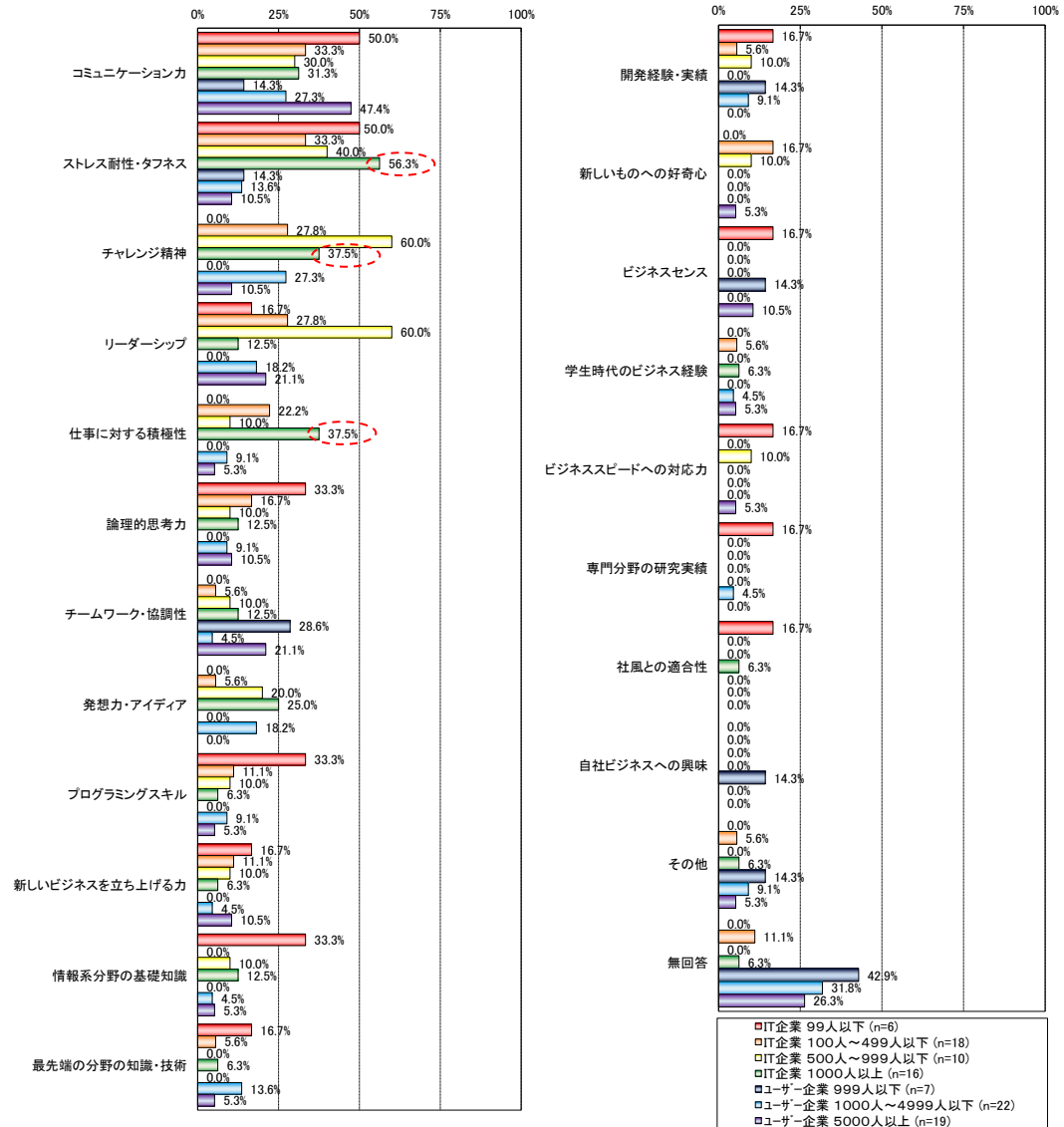
直近3年間に採用した情報系専攻者に 特に不足していると感じる点

【従業員規模別】

- 直近3年間で採用した情報系専攻者に不足している点を、「従業員規模別」にみると、IT企業のうち特に1,000名以上の大企業では、第1位が「ストレス耐性・タフネス」、第2位が「チャレンジ精神」、第3位「仕事に対する積極性」となっており、専門的スキル以外の能力についての不足を感じている企業が多い。
- 500～999名の従業員規模の中堅IT企業では、第1位が「チャレンジ精神」、第2位が「リーダーシップ」、「ストレス耐性・タフネス」となっている。

【問4-1】直近3年間に貴社で採用された情報系分野の人材について、特に不足している（貴社が期待する水準に満たない）と感じる点は何か。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

直近3年間に採用した情報系専攻者に
特に不足していると感じる点
【従業員規模別】

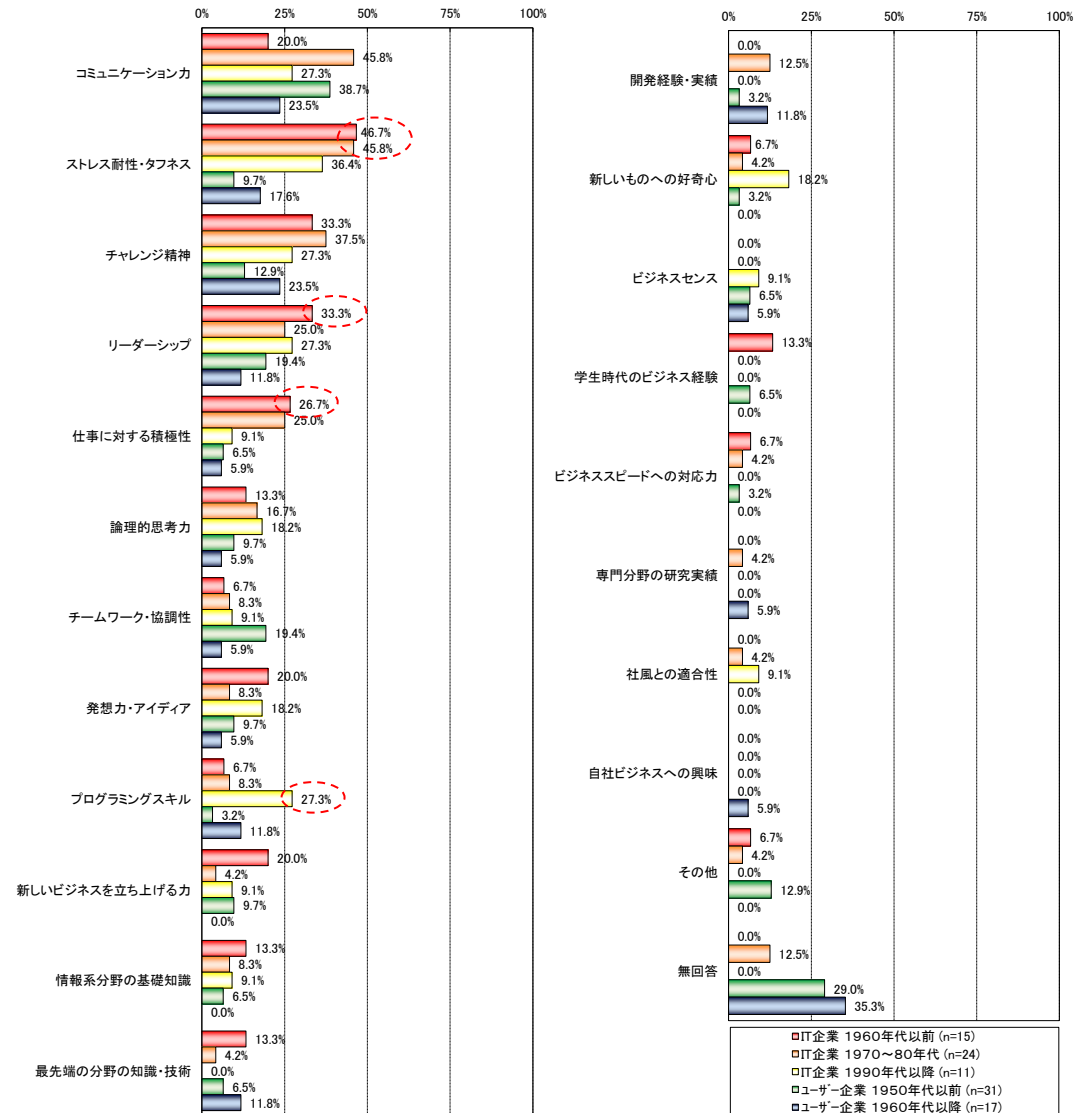


直近3年間に採用した情報系専攻者に 特に不足していると感じる点 【創業年代別】

- 直近3年間に採用した情報系専攻者に不足している点を、「創業年代別」にみると、創業年数の長いIT企業のほうが「**ストレス耐性・タフネス**」が不足していると感じている割合が高いという結果となっている。
- その他、「**リーダーシップ**」、「**仕事に対する積極性**」については、1960年代以前の企業がやや高くなっている。
- 「**プログラミングスキル**」については、創業年数が比較的新しい企業のほうが不足していると感じている割合が高い。

【問4-1】直近3年間に貴社で採用された情報系分野の人材について、特に不足している（貴社が期待する水準に満たない）と感じる点は何か。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

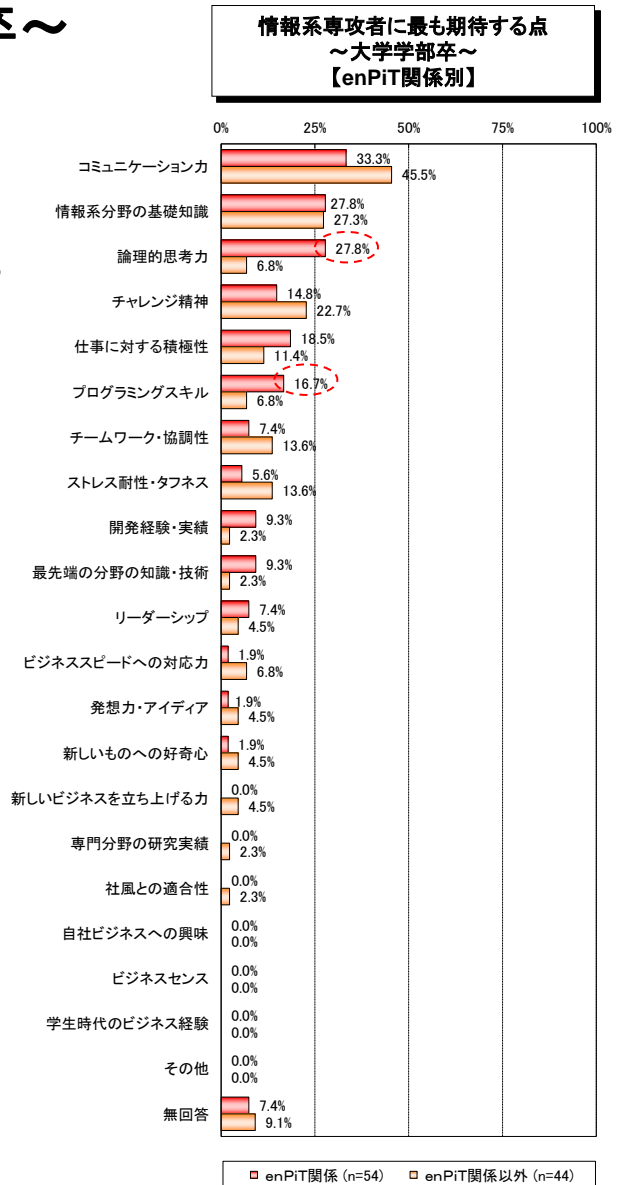
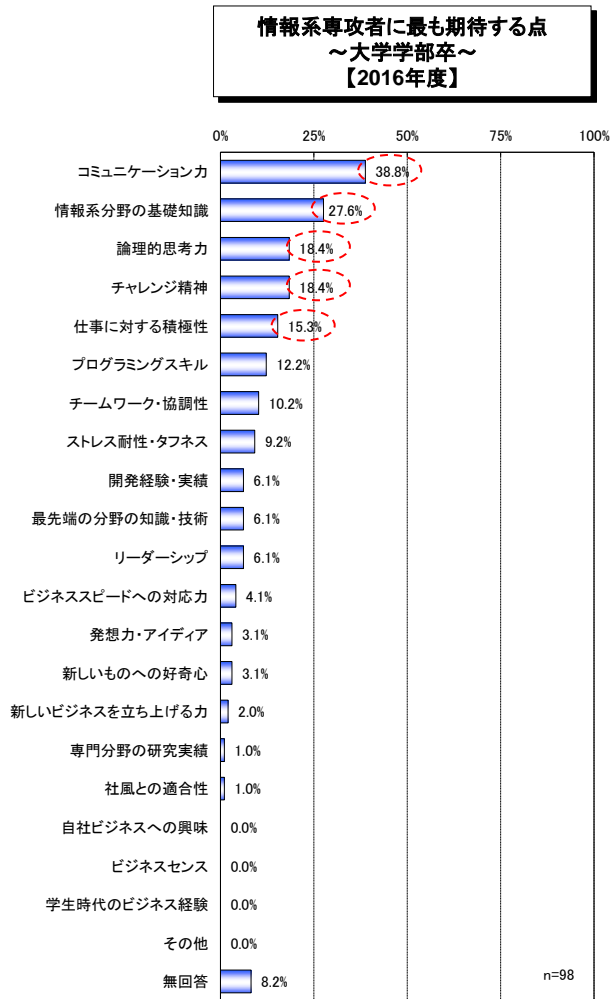
直近3年間に採用した情報系専攻者に
特に不足していると感じる点
【創業年代別】



情報系専攻者に最も期待する点 ～大学学部卒～

- 前頁と同様の項目で、大学学部卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を尋ねた設問では「**コミュニケーション力**」、「**情報系分野の基礎知識**」、「**論理的思考力**」、「**チャレンジ精神**」、「**仕事に対する積極性**」が上位5つとなった。
- enPiT関係企業／関係以外企業別にみると、「**コミュニケーション力**」、「**情報系分野の基礎知識**」の回答はいずれも高い。
- 「**論理的思考力**」、「**プログラミングスキル**」については、enPiT関係企業のほうが関係以外の企業よりも**1割以上高い結果**となった。

【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院(修士)卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。(重複可)

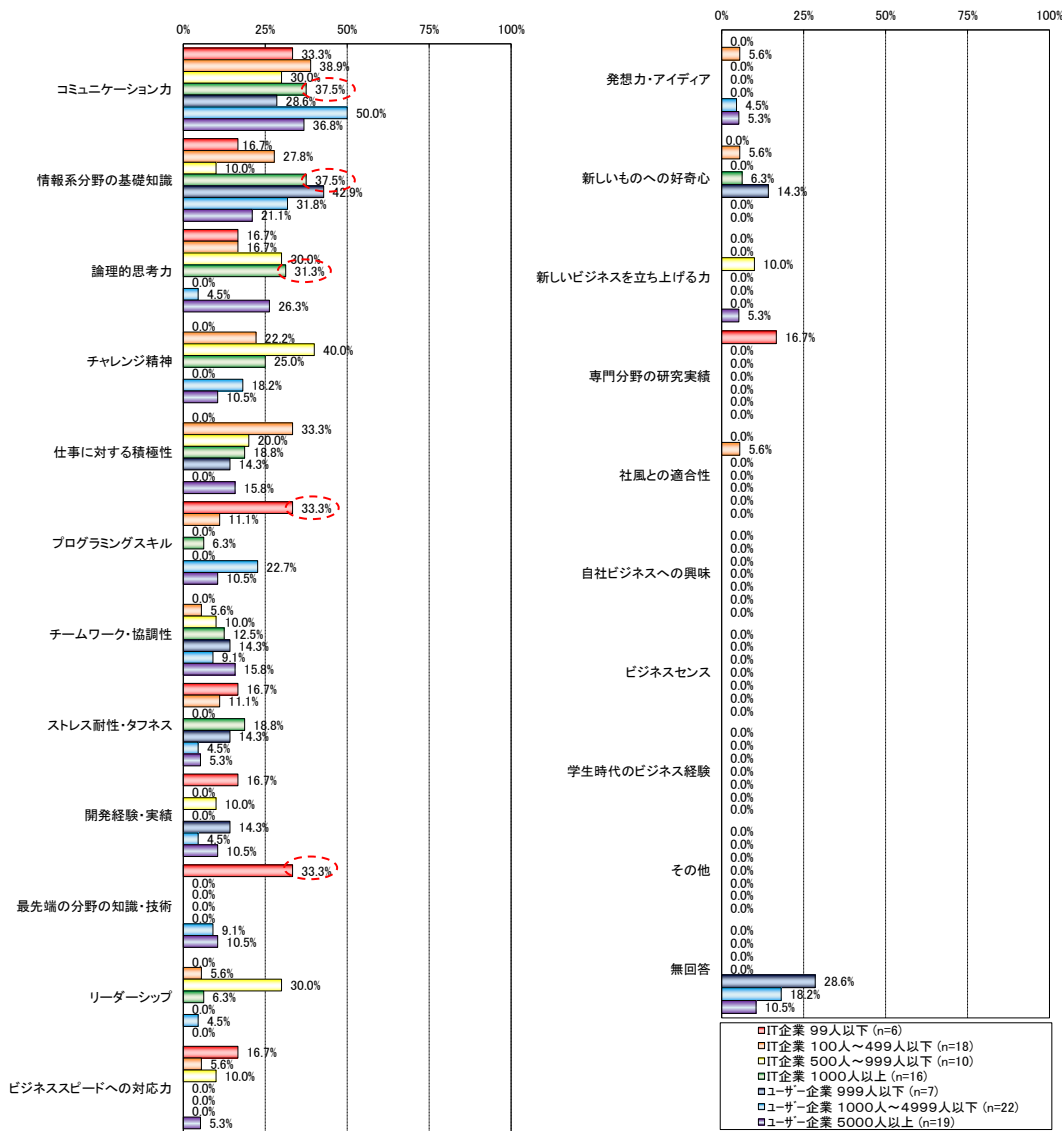


情報系専攻者に最も期待する点 ～大学学部卒～ 【従業員規模別】

- 大学学部卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を、「従業員規模別」にみると、**IT企業のうち特に1,000名以上の大企業では、第1位が「コミュニケーション力」、第2位が「情報系分野の基礎知識」、第3位「論理的思考力」となっており、専門的スキル以外の能力についての不足を感じている企業が多い。**
- **「プログラミングスキル」、「最先端の分野の知識・技術」等の専門的なスキルは、IT企業のうち99名以下の企業で最も高くなっている。**

【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院(修士)卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。(重複可)

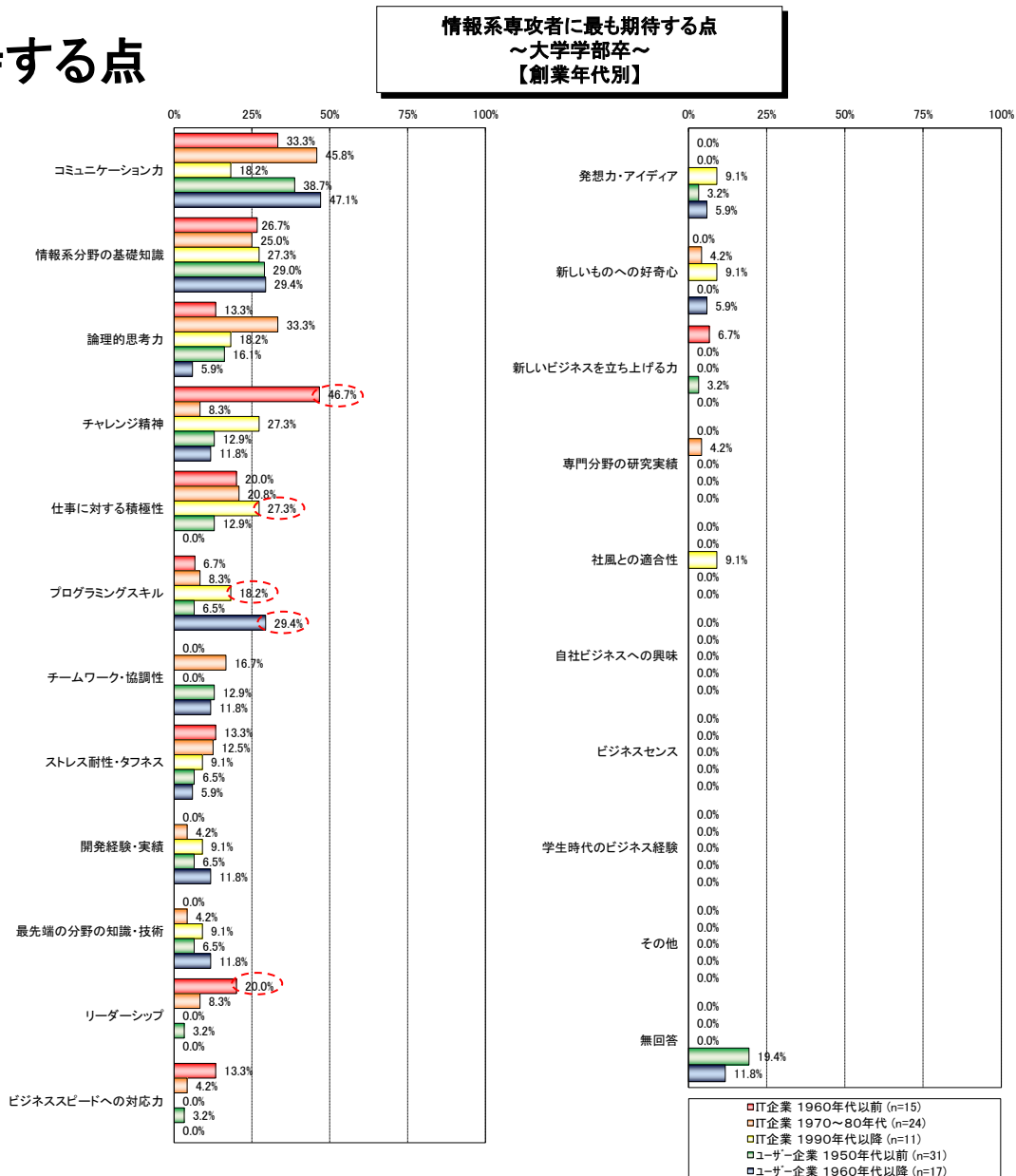
情報系専攻者に最も期待する点
～大学学部卒～
【従業員規模別】



情報系専攻者に最も期待する点 ～大学学部卒～ 【創業年代別】

- 大学学部卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を、「創業年代別」にみると、**創業年数の長いIT企業のほうが「チャレンジ精神」、「リーダーシップ」が不足していると回答している割合が高い**という結果となっている。
- **「プログラミングスキル」や「仕事に対する積極性」**については、創業年数が比較的短い企業のほうが不足していると回答している割合が高い。

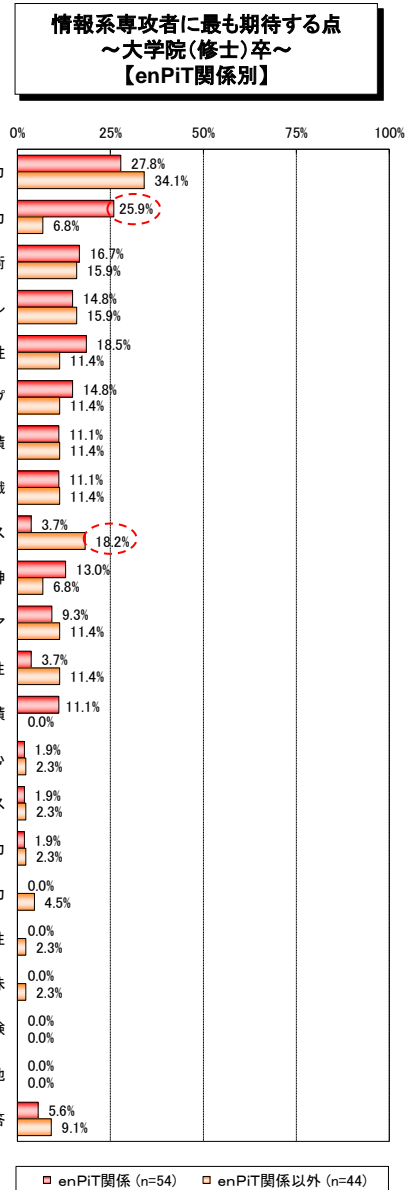
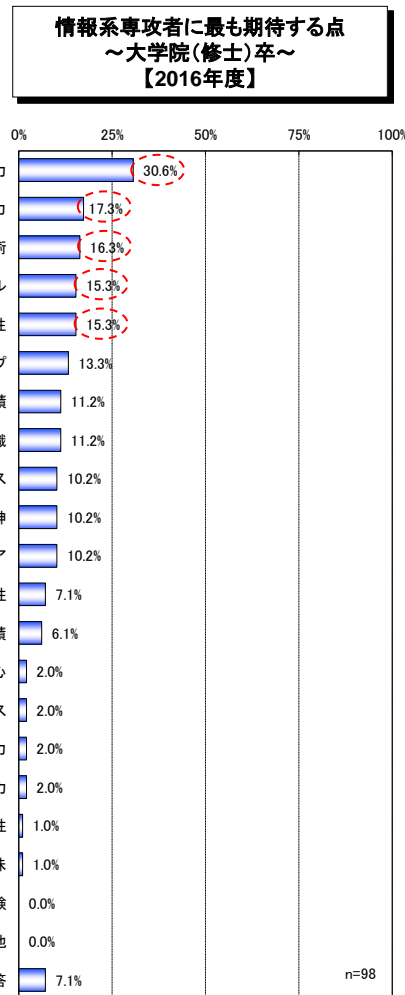
【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院（修士）卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。（重複可）



情報系専攻者に最も期待する点 ～大学院(修士卒)～

- 大学学部卒と同様に、大学院(修士)卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を尋ねた設問では、「**コミュニケーション力**」、「**最先端の分野の知識・技術**」、「**論理的思考力**」、「**プログラミングスキル**」、「**仕事に対する積極性**」が上位5つとなった。
- 大学学部卒と比べて「**最先端の分野の知識・技術**」や「**プログラミングスキル**」の順位が上昇している点が注目される。
- 「**論理的思考力**」については、enPiT関係企業のほうが関係以外企業に比べて2割以上高いほか、「**スキル耐性・タフネス**」はenPiT関係以外の企業が1割程度高い。

【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院(修士)卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。(重複可)



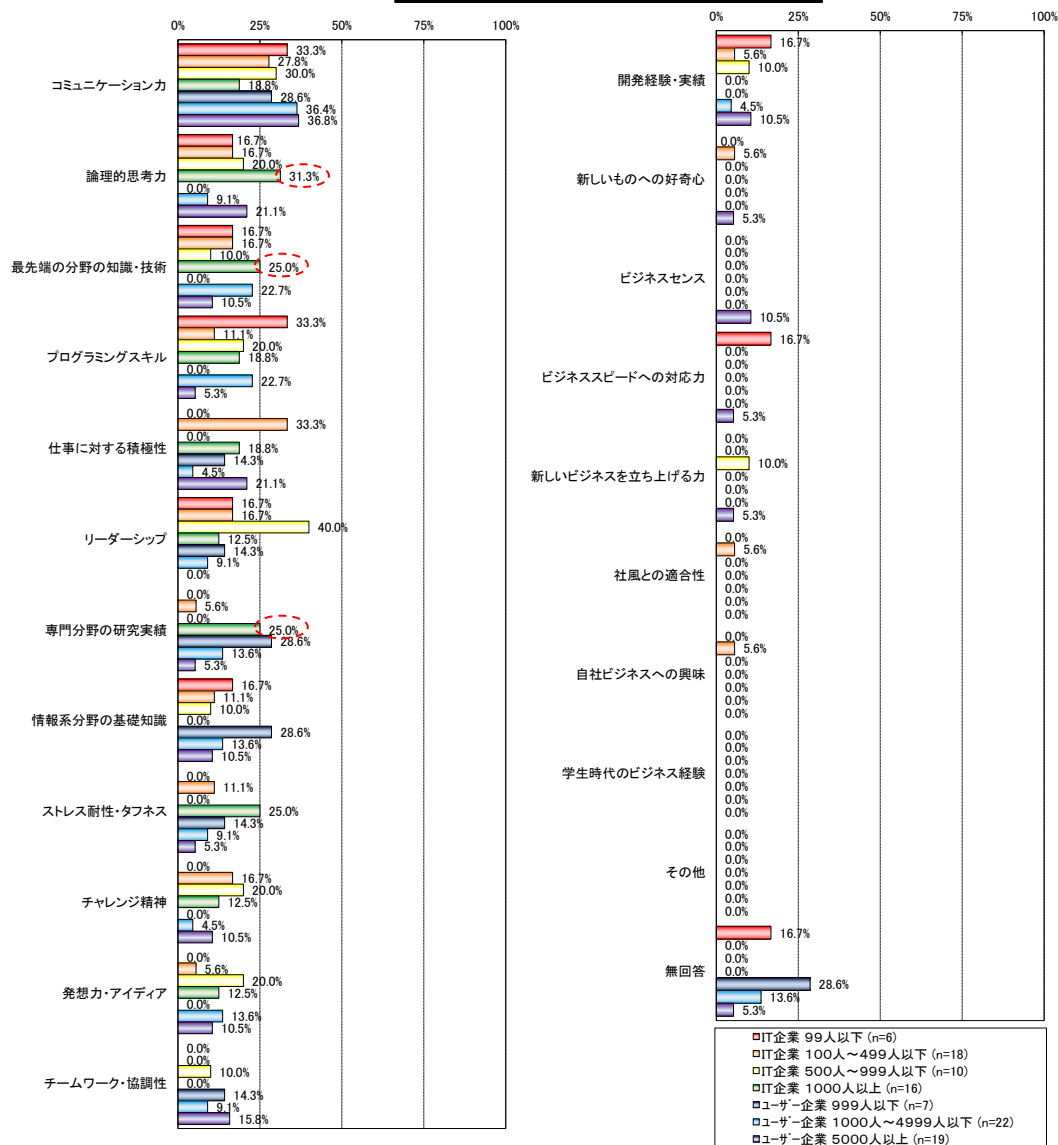
情報系専攻者に最も期待する点 ～大学院(修士)卒～

【従業員規模別】

- 大学院(修士)卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を、「従業員規模別」にみると、**IT企業のうち特に1,000名以上の大企業では、第1位が「論理的思考力」、第2位が「最先端の分野の知識・技術」、第3位「専門分野の研究実績」となっている。**
- 特に1,000名以上の大企業では、大学院(修士)卒の情報系専攻者に対して、大学学部卒よりも、「最先端の分野の知識・技術」や「専門分野の研究実績」などの**専門性に期待している企業が多い**ことがうかがえる。

【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院(修士)卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。(重複可)

情報系専攻者に最も期待する点
～大学院(修士)卒～
【従業員規模別】

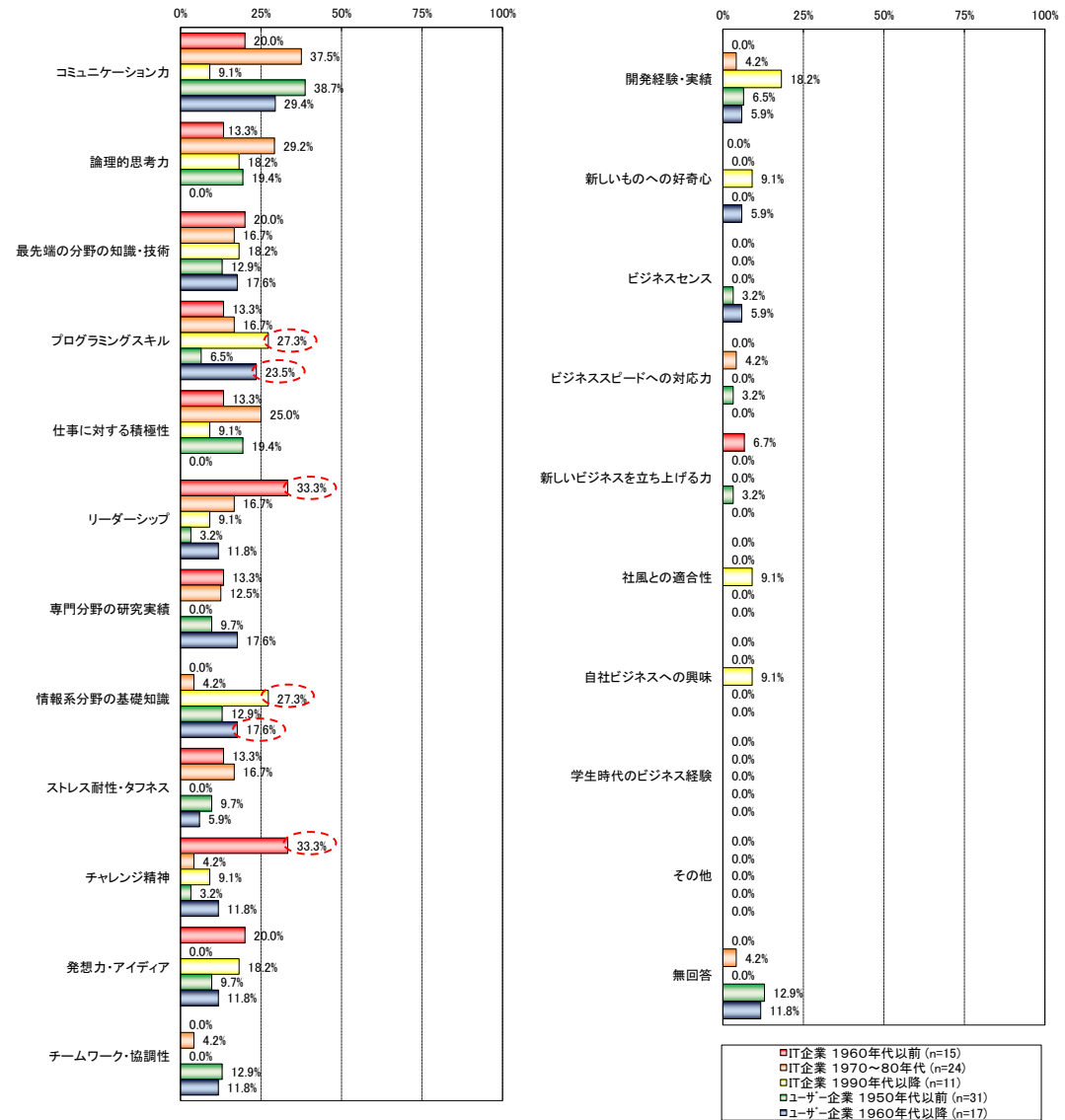


情報系専攻者に最も期待する点 ～大学院(修士)卒～ 【創業年代別】

情報系専攻者に最も期待する点
～大学院(修士)卒～
【創業年代別】

- 大学院(修士)卒の情報系専攻者に対して最も期待する点を、「創業年代別」にみると、創業年数の長いIT企業のほうが「**リーダーシップ**」、「**チャレンジ精神**」を最も期待していると回答している割合が高いという結果となっている。
- 「**プログラミングスキル**」や「**情報系分野の基礎知識**」については、創業年数が比較的短い企業のほうが期待している割合が高い。

【問4-2】 問4-1の項目のうち、大学学部卒及び大学院(修士)卒の情報系分野の人材に対して、それぞれ最も期待する項目を2つまで選び、1～21のいずれかの番号をご記入ください。(重複可)

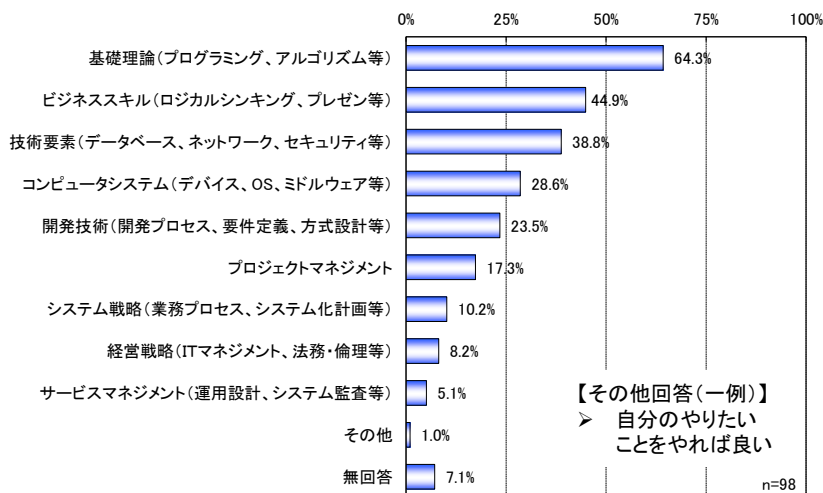


■ 情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野

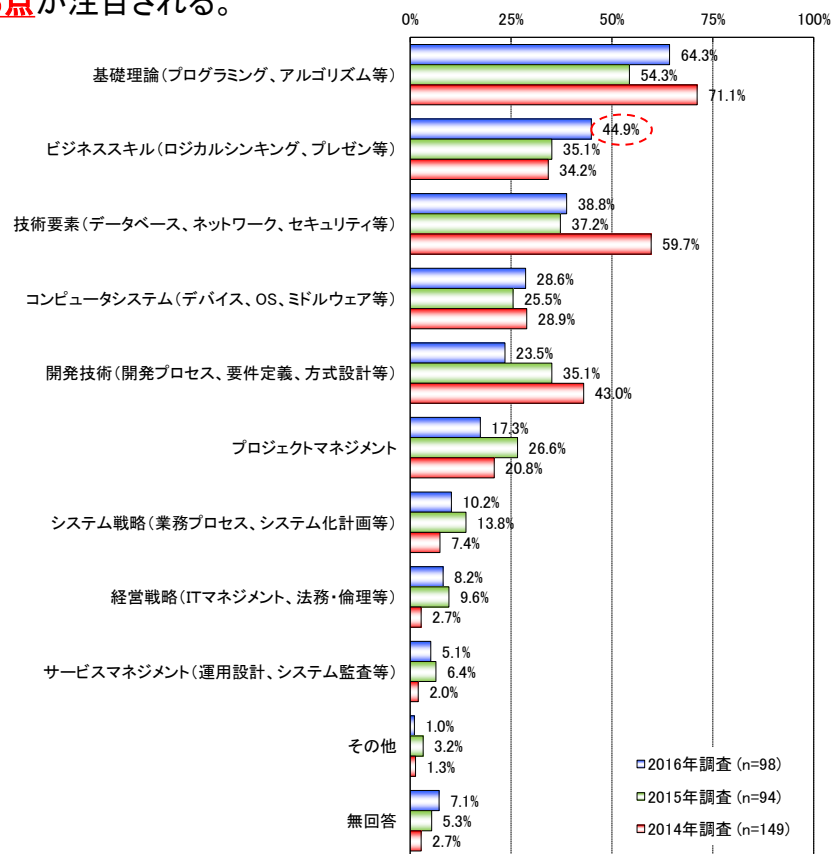
- 情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野として、下図のような項目について尋ねたところ、「**基礎理論（プログラミング、アルゴリズム等）**と回答した割合が6割を超える結果となった。
- 続いて、「ビジネススキル」、「技術要素」、「コンピュータシステム」という回答が続いている。一昨年度、昨年度の結果と比較すると、「開発技術」という回答は減っているが、「**ビジネススキル**」という回答が増えている点が目される。

【問5】 情報系分野を専攻した大学学部卒の新卒人材が、今後企業で活躍するために大学の情報教育で特に習得しておくべき分野は何だと思いますか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野【2016年度】



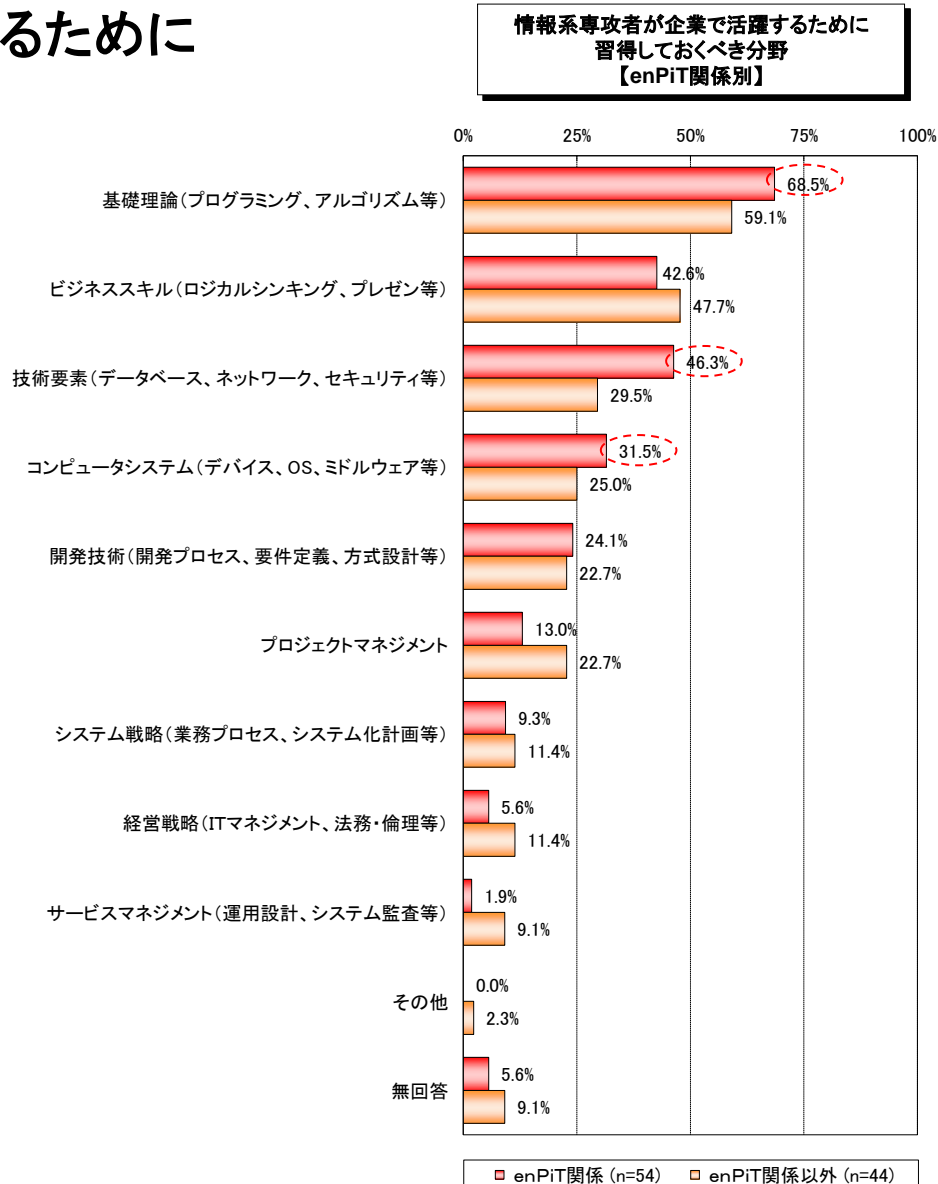
情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野【経年比較】



■ 情報系専攻者が企業で活躍するために 習得しておくべき分野 【enPiT関係別】

- 情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野について尋ねた設問を、enPiT関係企業／関係以外の企業でみると、右図のとおりとなった。
- enPiT関係企業では、関係以外の企業と比べて、「基礎理論」、「技術要素」、「コンピュータシステム」を回答している割合がやや高いという結果であった。
- enPiT関係以外の企業では、「ビジネススキル」や「プロジェクトマネジメント」を回答している割合が、enPiT関係企業より高いという結果となっている。

【問5】 情報系分野を専攻した大学学部卒の新卒人材が、今後企業で活躍するために大学の情報教育で特に習得しておくべき分野は何だと思いますか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。



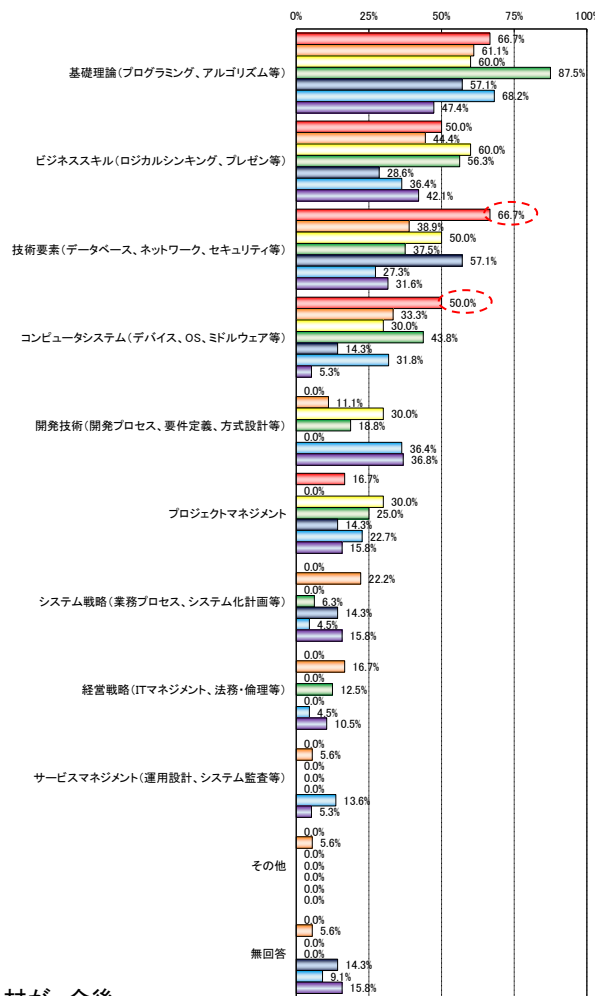
情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野

【従業員規模別・創業年代別】

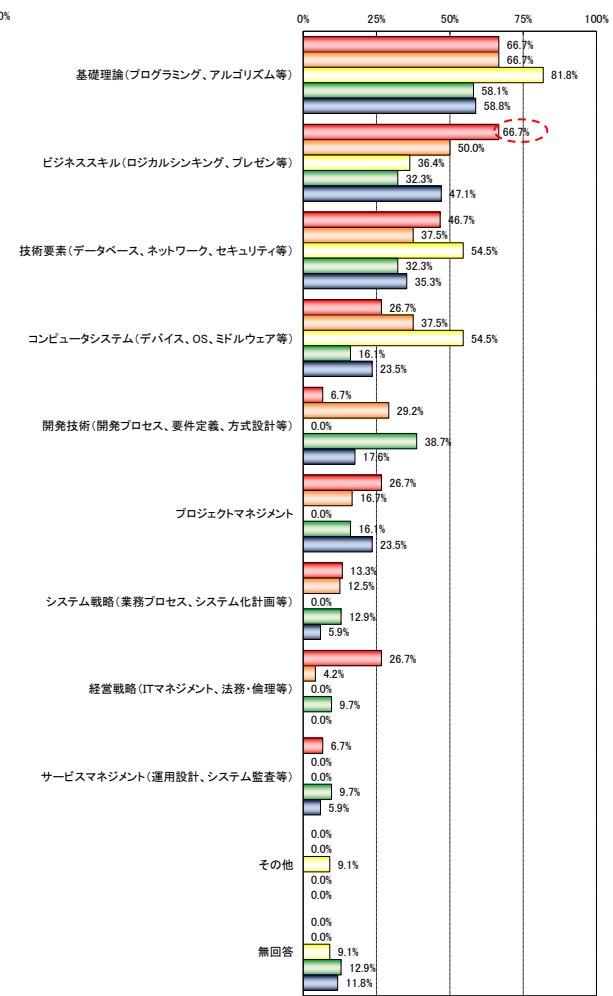
- 情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野について尋ねた設問を、「従業員規模別」、「創業年代別」にみると、右のとおりとなった。
- 「従業員規模別」(左図)をみると、IT企業のうち**比較的規模の小さい企業**において「**技術要素**」、「**コンピューターシステム**」といった**技術的な分野**に対する**ニーズが高い**ことが分かる。
- 「創業年代別」(右図)にみると、IT企業では、**伝統的な企業のほうが「ビジネススキル」**を習得しておくべきと**回答した割合が高くなっている**。

【問5】 情報系分野を専攻した大学学部卒の新卒人材が、今後企業で活躍するために大学の情報教育で特に習得しておくべき分野は何だと思いますか。以下のうち、当てはまるものを3つまでお選びください。

情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野【従業員規模別】



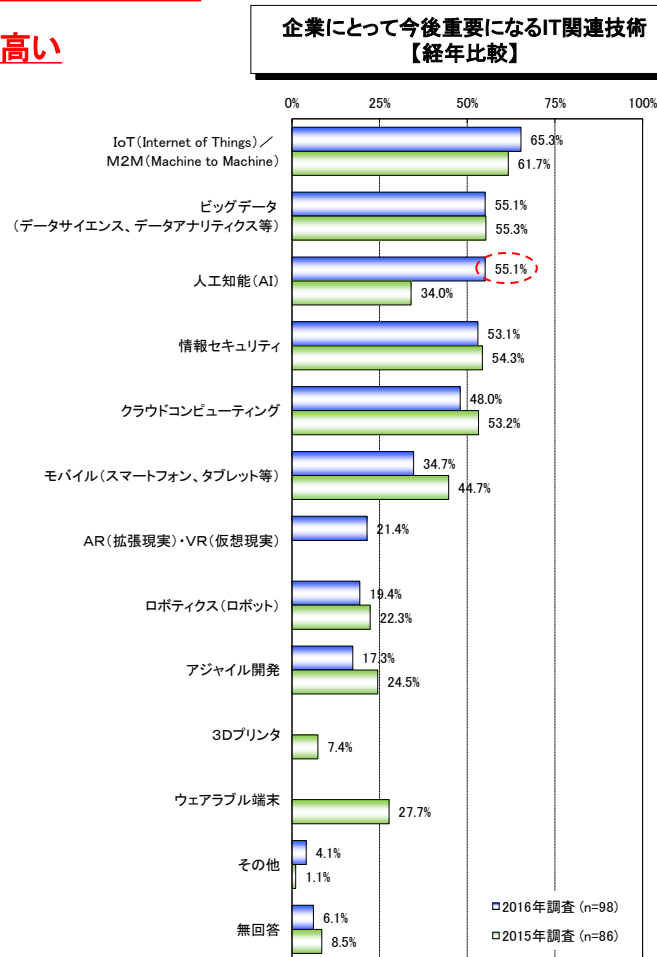
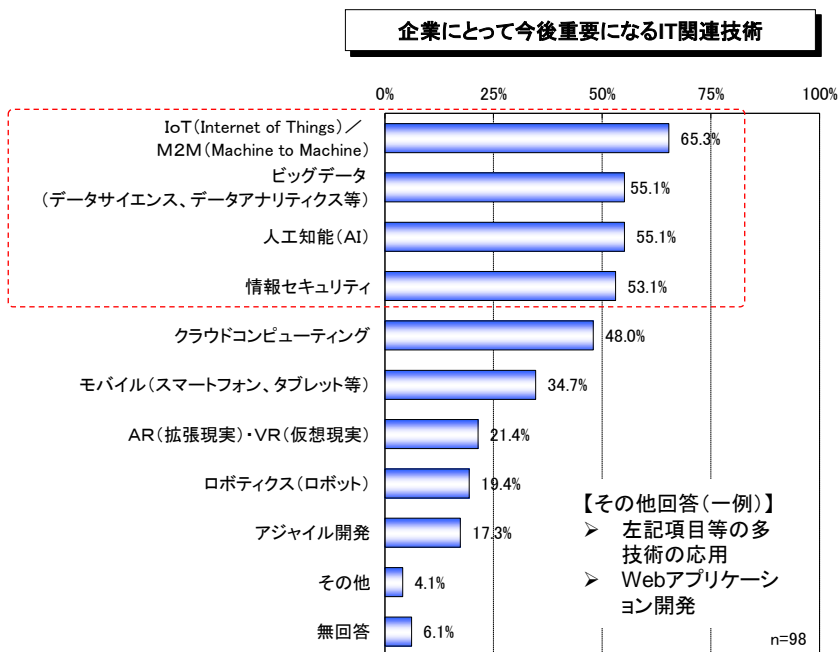
情報系専攻者が企業で活躍するために習得しておくべき分野【創業年代別】



■ 企業にとって今後重要になるIT関連技術

- 情報系分野において注目している技術や重要視している技術を尋ねる設問では、「IoT(Internet of Things)／M2M(Machine to Machine)」や「ビッグデータ(データサイエンス、データアナリティクス等)」のほか、「人工知能(AI)」、「情報セキュリティ」上位4項目となり、これらについては回答割合が5割を超えている。
- 特に、「人工知能(AI)」に関しては、昨年度の結果と比較して2割程度高い回答を得ており、近年の注目の高さが反映されていると考えられる。

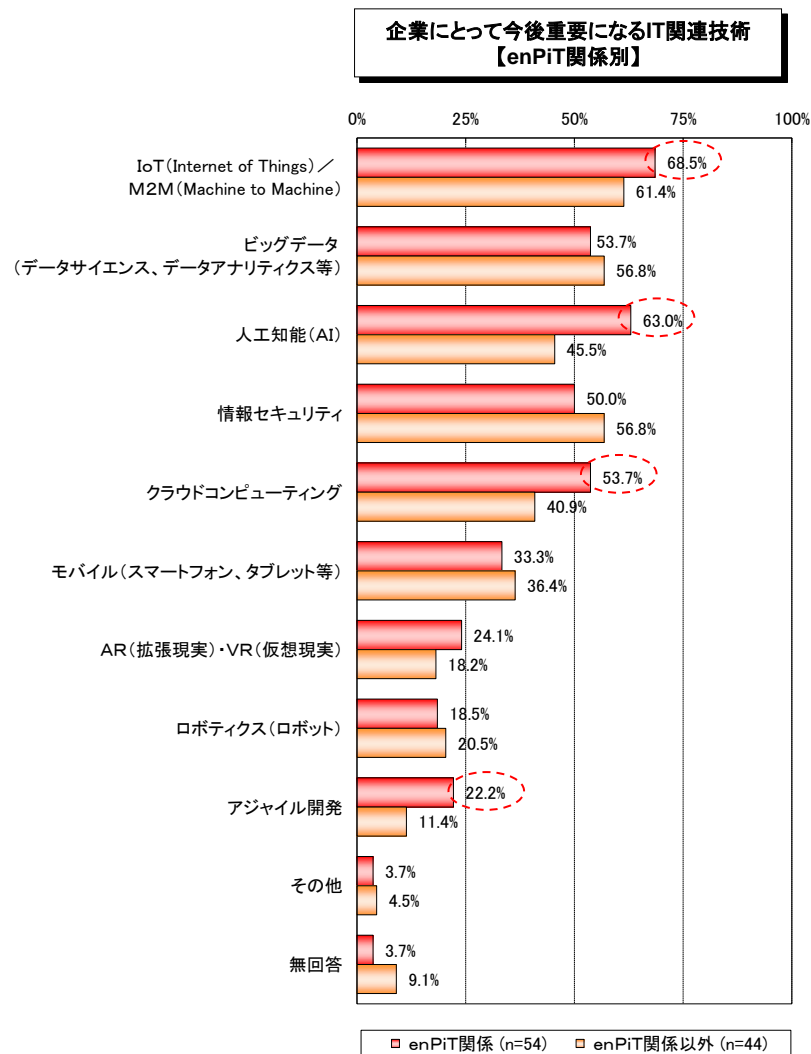
【問6】 IT関連分野において、貴社が現在特に注目している技術や今後貴社での活用が重要となると考えられる技術・手法等がありますか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。



■ 企業にとって今後重要になるIT関連技術【enPiT関係別】

【問6】 IT関連分野において、貴社が現在特に注目している技術や今後貴社での活用が重要となると考えられる技術・手法等がありますか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。

- 前頁の回答をenPiT関係企業／関係以外の企業別にみると、enPiT関係企業では、関係以外の企業と比べて「IoT／M2M」のほか、「人工知能(AI)」、「クラウドコンピューティング」、「アジャイル開発」の回答が高いという結果となった。
- enPiT関係以外の企業については、「ビッグデータ」、「情報セキュリティ」の回答が高くなっている。



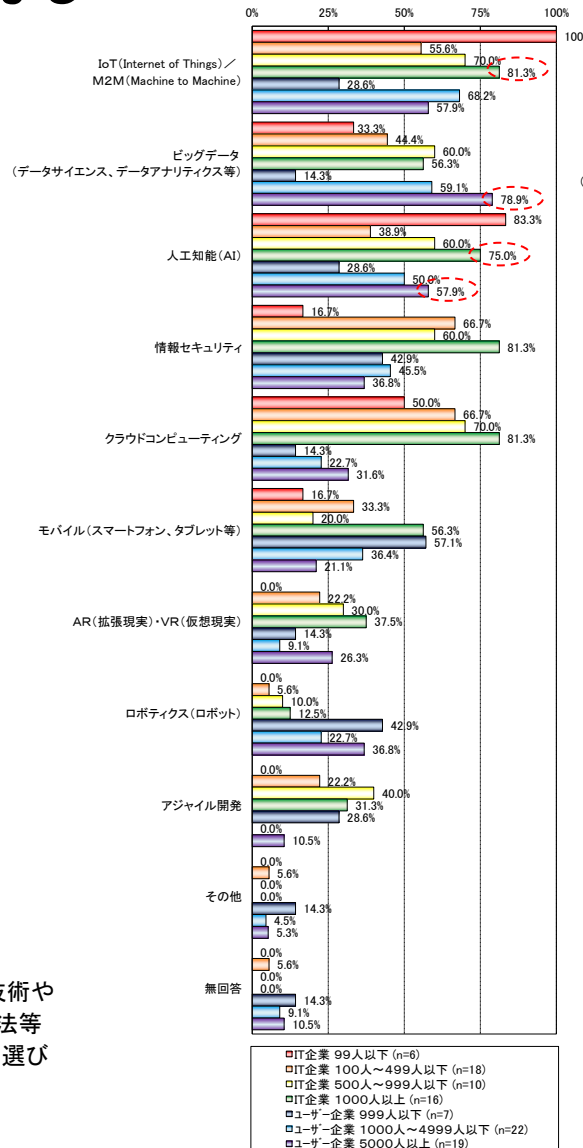
■ 企業にとって今後重要になるIT関連技術

【従業員規模別・創業年代別】

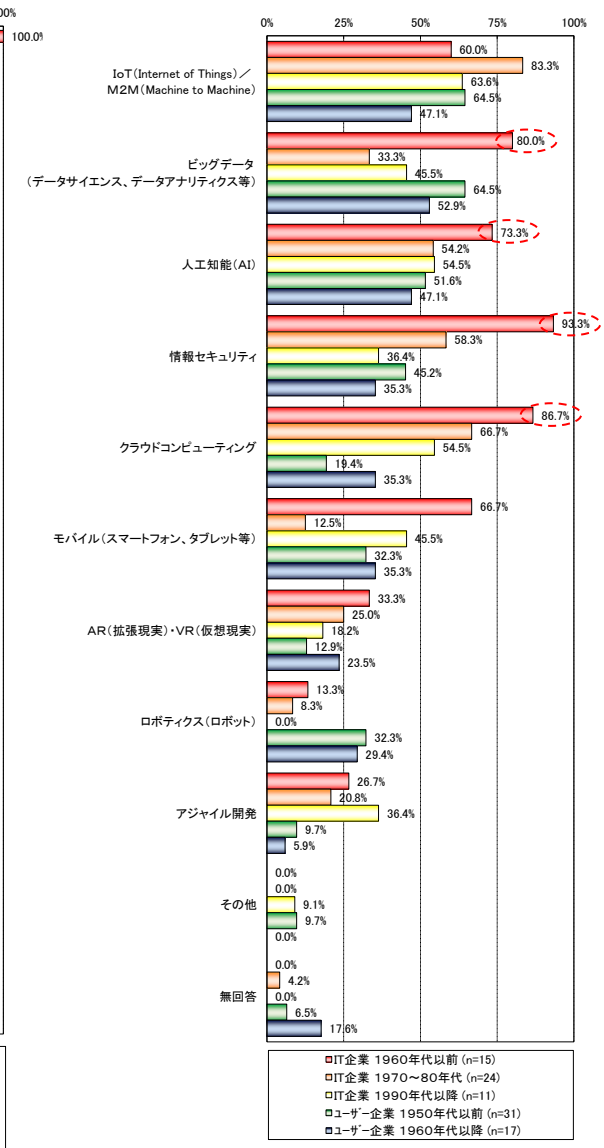
- 前頁の回答を「従業員規模別」にみると（左図）、IT企業の1,000人以上のIT企業及び、99名以下のIT企業では、「IoT/M2M」のほか、「人工知能(AI)」に対する関心が特に高い。
- ユーザー企業では、比較的大きな企業が「ビッグデータ」、「人工知能(AI)」等、IT企業と同様の技術に関心を持っている。
- 「創業年代別」にみると（右図）、IT企業では、伝統的な企業のほうが「ビッグデータ」、「人工知能(AI)」、「情報セキュリティ」、「クラウドコンピューティング」等の先進的なIT技術を習得しておくべきと回答した割合が高い。

【問6】 IT関連分野において、貴社が現在特に注目している技術や今後貴社での活用が重要となると考えられる技術・手法等がありますか。以下のうち、当てはまるものをすべてお選びください。

企業にとって今後重要になるIT関連技術
【従業員規模別】



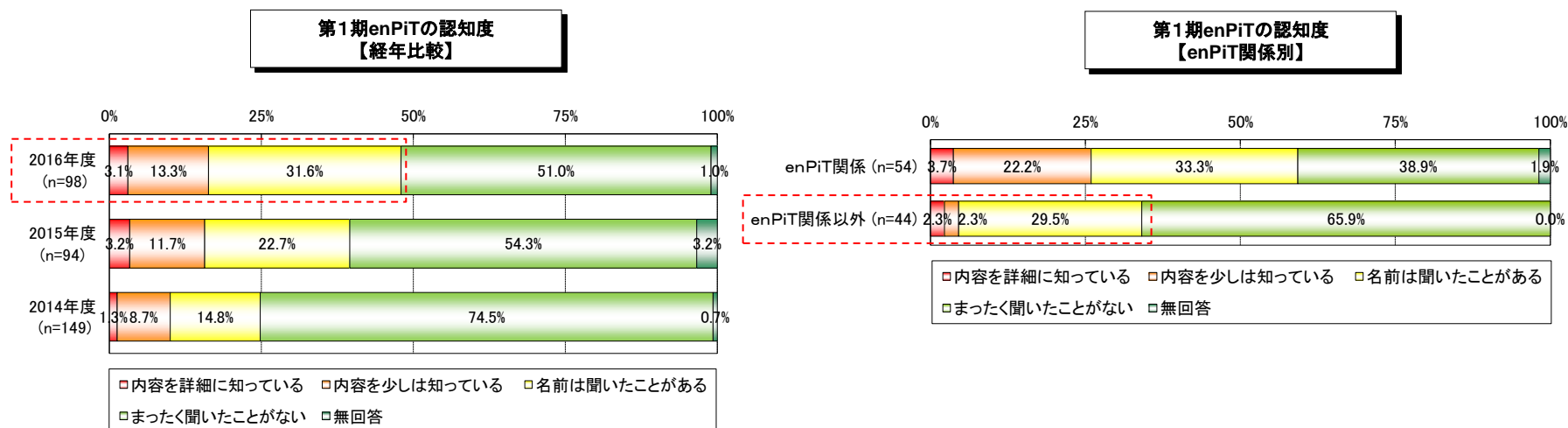
企業にとって今後重要になるIT関連技術
【創業年代別】



第1期enPiTの認知度

- 企業向けの調査では、2014年度から継続的に、第1期enPiTの認知度や認知経路を尋ねている。
- 今年度の結果をみると(左図)、「内容を詳細に知っている」、「内容を少しは知っている」、「名前は聞いたことがある」と回答した企業が**5割程度(48.0%)**であった。昨年度(37.6%)、一昨年度(24.8%)と比較すると、年々認知度は高まっており、**昨年度よりも1割程度もenPiTの認知度が高まっている**。
- enPiT関係企業／関係以外企業でみると(右図)、enPiT関係企業では6割を上回っているが、enPiT関係以外企業でも3割を上回っている。

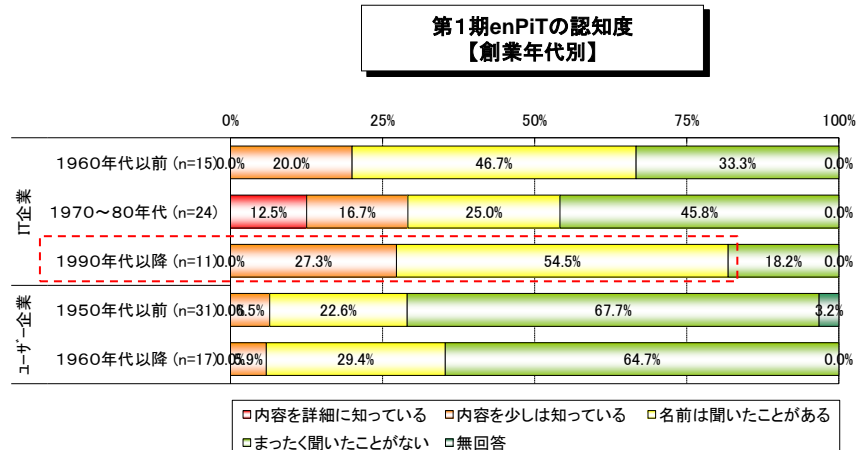
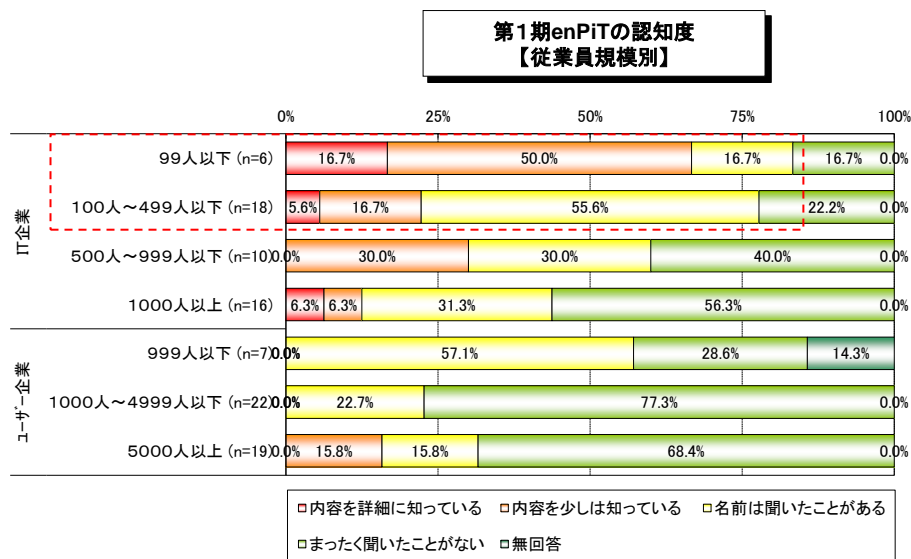
【問7】平成24年度から、文部科学省の補助事業として、大阪大学を中心に全国の大学院(情報系専攻)において、情報技術分野の実践的教育を目的とする「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」(「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク」(第1期enPiT))が実施されています。貴殿はこの事業についてご存知ですか。



第1期enPiTの認知度【従業員規模別・創業年代別】

- enPiTの認知度は、**IT企業では約6割程度、ユーザー企業では約3割程度**とみられる。
- また、「従業員規模別」にみると(左図)、「99人以下のIT企業」、「100人～499人以下のIT企業」では8割近い認知度を達成している。また、「500～999人以下のIT企業」、「1,000人以上のIT企業」での認知度は5割前後となっている。
- 「創業年代別」では(右図)、「1990年代以降に創業したIT企業」において8割を上回っており、**従業員規模の小さな企業や創業年が短い新興IT企業において特に認知度が高い傾向がある**ことがうかがえる。

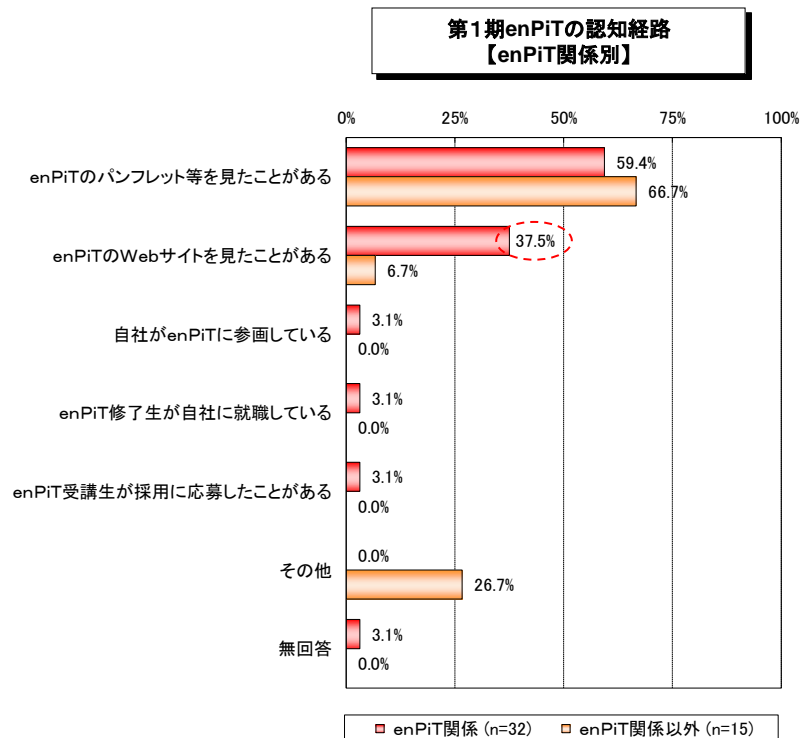
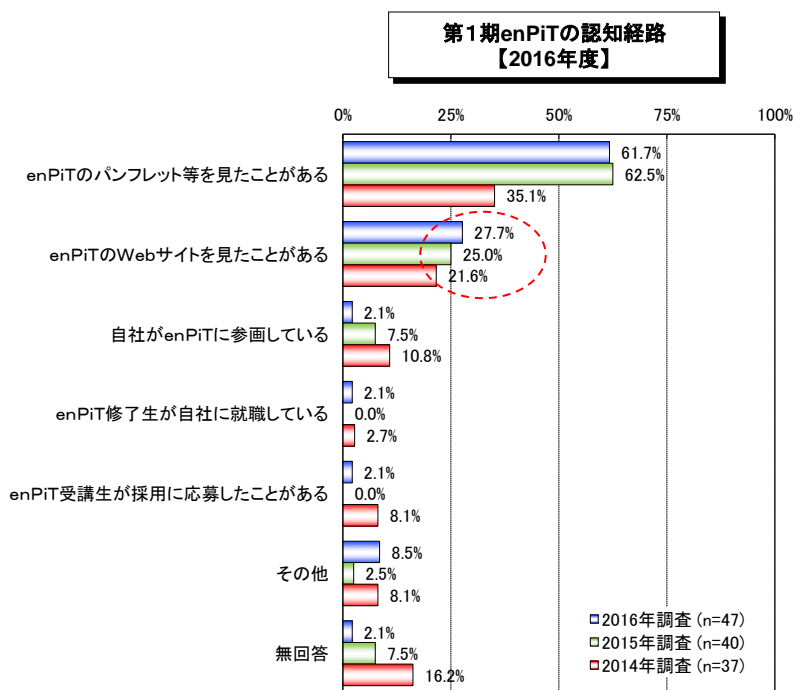
【問7】平成24年度から、文部科学省の補助事業として、大阪大学を中心に全国の大学院(情報系専攻)において、情報技術分野の実践的教育を目的とする「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」(「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク」(第1期enPiT))が実施されています。貴殿はこの事業についてご存知ですか。



■ 第1期enPiTの認知経路

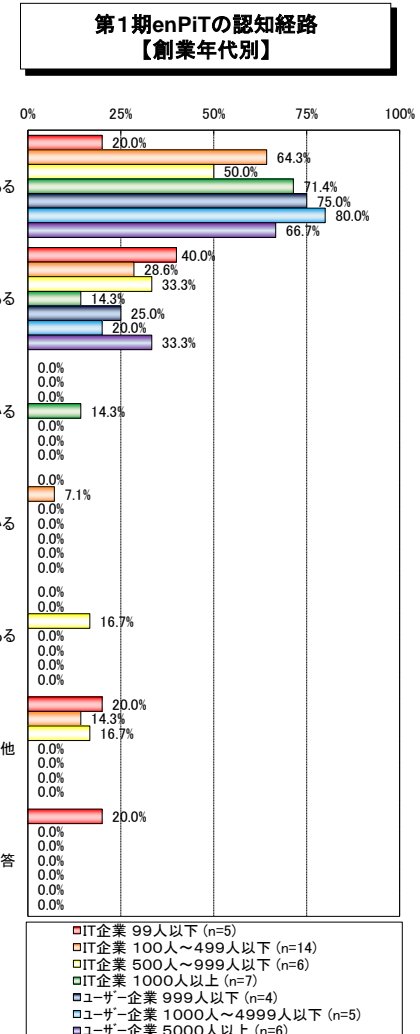
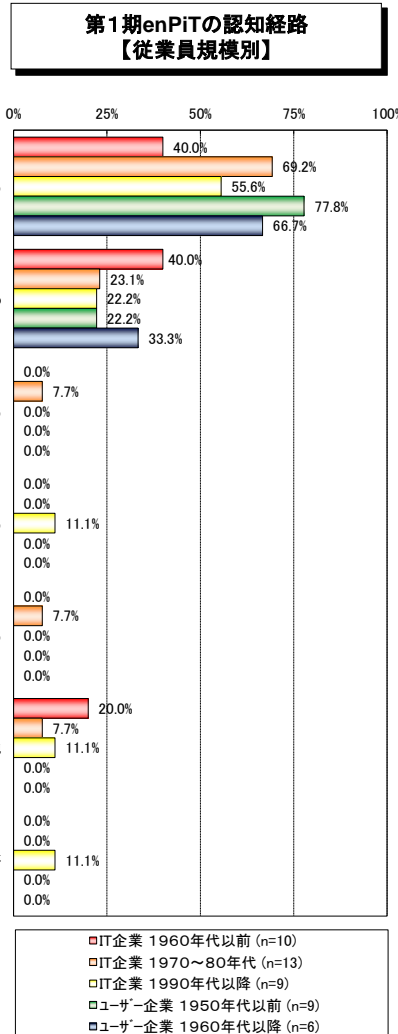
- enPiTの認知経路としては、「パンフレット」や「Webサイト」が上位を占めており、昨年度に引き続き、「enPiTのパンフレットを見たことがある」という回答が6割を上回っている。また、「Webサイト」という回答は、**年々上昇している**（左図）。
- enPiT関係企業では「Webサイト」という回答が、enPiT関係以外の企業よりも3割程度高くなっている（右図）。

【問8】（前頁で「内容を詳細に（少しは）知っている」「聞いたことがある」と回答された場合）貴殿は何を通じてenPiTを知りましたか。
以下のうち、当てはまるものをお選びください。



第1期enPiTの認知経路【従業員規模別・創業年代別】

- enPiTの認知経路としては、IT企業・ユーザー企業ともに「パンフレット」の割合が高く、次いで、「Webサイト」となっている。

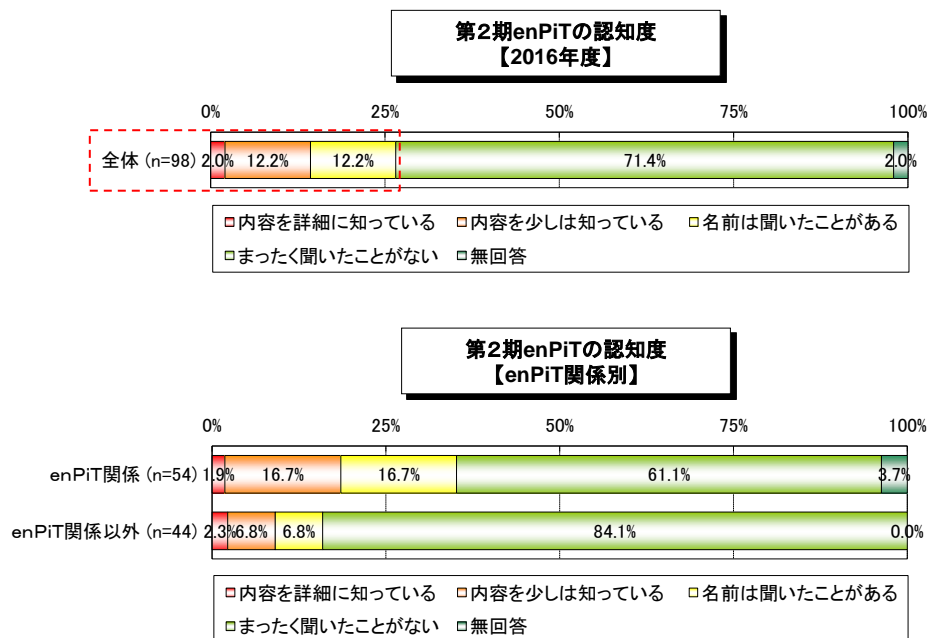


【問8】（前頁で「内容を詳細に(少しは)知っている」「聞いたことがある」と回答された場合）貴殿は何を通じてenPiTを知りましたか。以下のうち、当てはまるものをお選びください。

第2期enPiTの認知度

- **第2期enPiTの認知度**については、「内容を詳細に知っている」、「内容を少しは知っている」、「名前は聞いたことがある」と回答した企業が**3割弱(26.4%)**となった(上図)。**第1期enPiTの2014年度時点の認知度(24.8%)を上回っており、enPiT全体としての認知度も徐々に高まっている**と考えられる。
- enPiT関係企業／enPiT関係以外の企業で区分した結果をみると、enPiT関係企業では35.3%と3割を上回る一方で、enPiT関係以外の企業では15.9%にとどまっている(下図)。

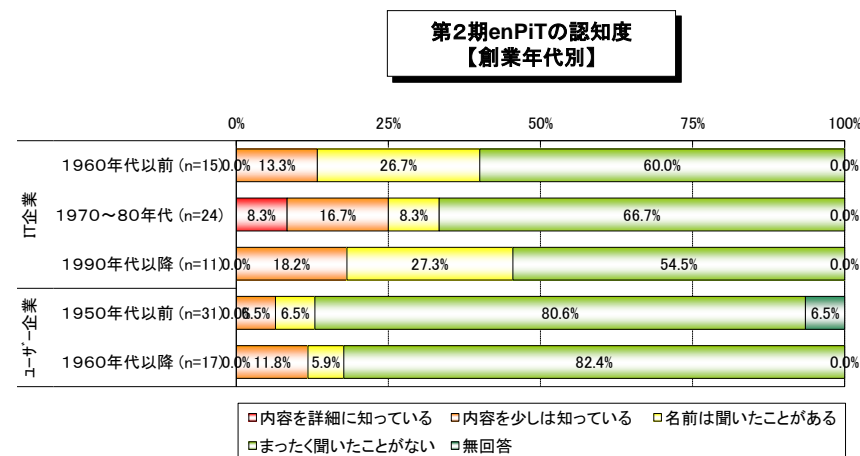
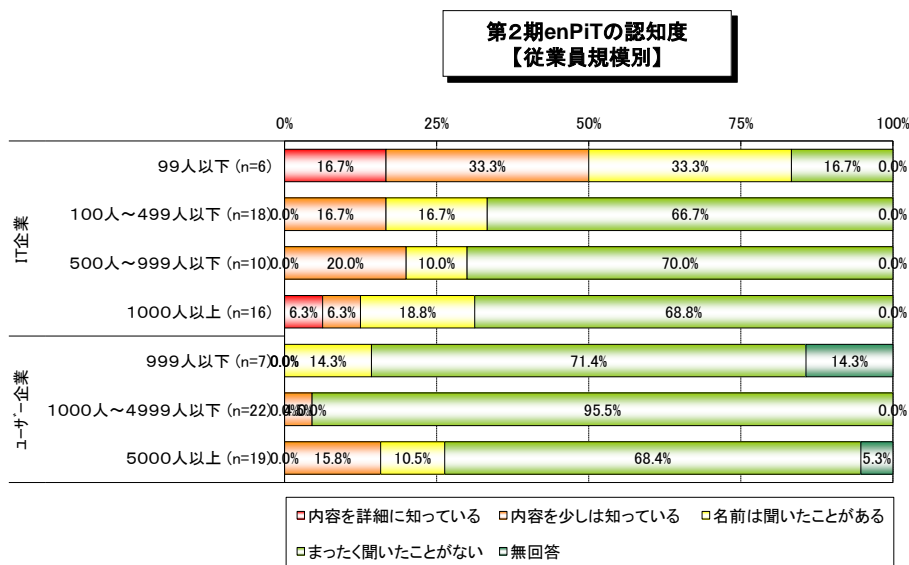
【問9】平成28年度から、問7の第1期enPiTの大学院生向けの教育事業に引き続き、大学学部3・4年生向けの実践的な情報系教育事業「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」(第2期enPiT)の活動を開始しています。貴殿はこの第2期enPiT(学部生向けenPiT)についてご存知ですか。



第2期enPiTの認知度【従業員規模別・創業年代別】

- 第2期enPiTの認知度は、**IT企業では約4割程度、ユーザー企業では約1～2割程度**とみられる。
- また、「従業員規模別」にみると、「100人～499人以下のIT企業」、「500～999人以下のIT企業」、「1,000人以上のIT企業」では認知度が3割程度となっている(左図)。
- 「創業年代別」では、いずれもIT企業では3～4割程度、ユーザー企業では1～2割程度となっている(右図)。

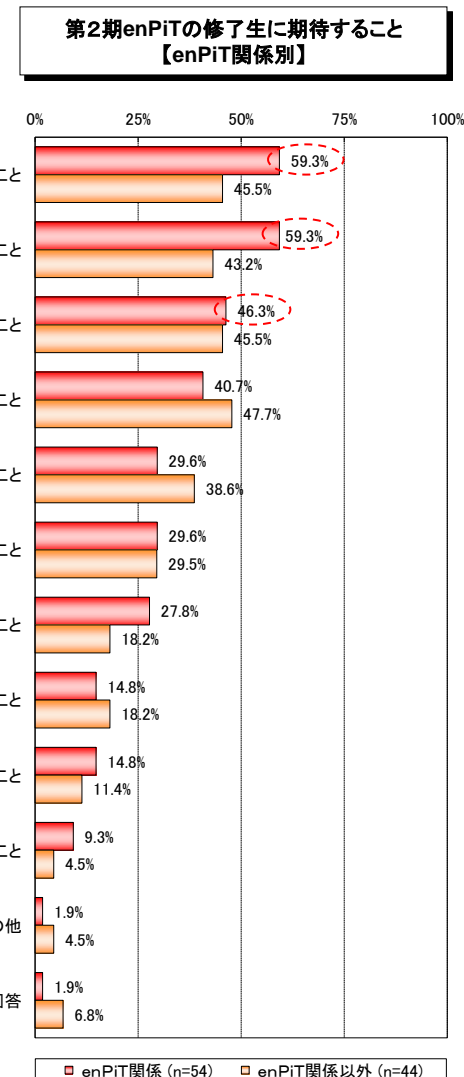
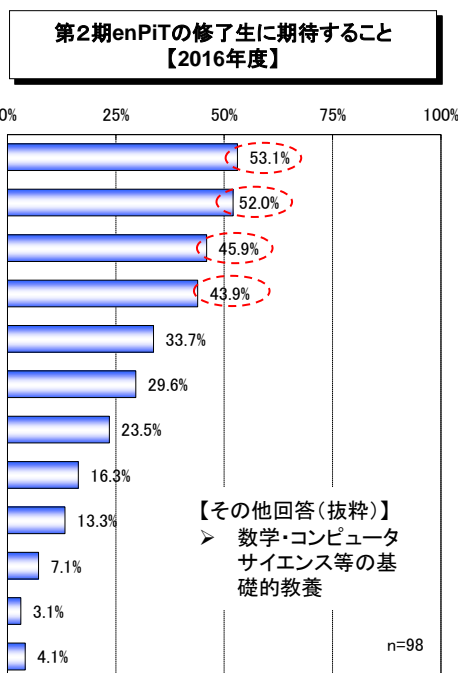
【問9】平成28年度から、問7の第1期enPiTの大学院生向けの教育事業に引き続き、大学学部3・4年生向けの実践的な情報系教育事業「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」(第2期enPiT)の活動を開始しています。貴殿はこの第2期enPiT(学部生向けenPiT)についてご存知ですか。



■ 第2期enPiTの修了生に期待すること

- 第2期enPiTの修了生に対して期待することを尋ねた設問では、**「チームによる開発を経験していること」という回答が最も高く、次いで「自主性・積極性が高いこと」、「先端技術について知っていること」、「高い技術力を身につけていること」の順となった。**
- 上位3項目は、いずれもenPiT関係企業の期待が高い。

【問10】同封の第2期enPiTに関する資料を簡単にご覧いただき、第2期enPiT(学部生向けenPiT)の修了生に対して貴殿が期待することとして、以下のうち当てはまるものをすべてお選びください。



第2期enPiTの修了生に期待すること

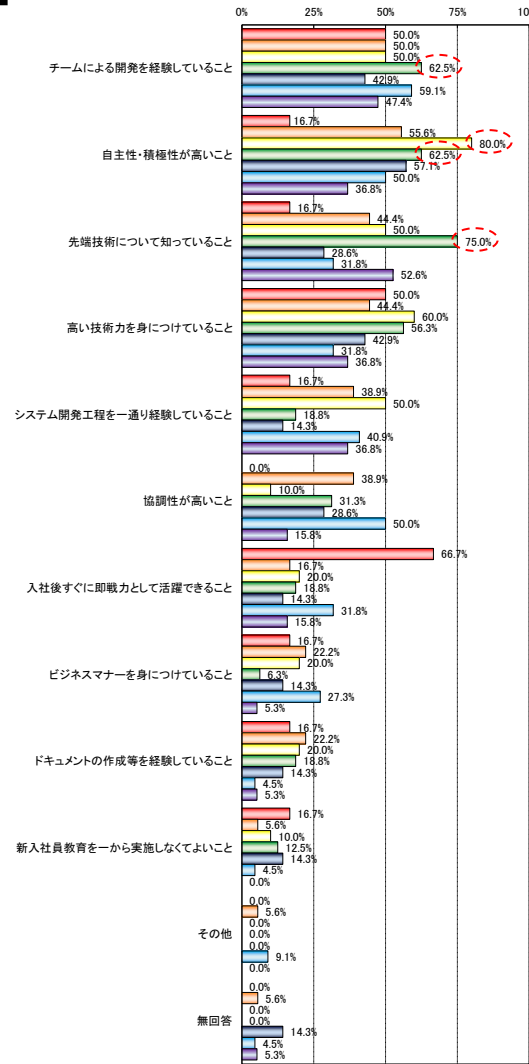
【従業員規模別・創業年代別】

■ 第2期enPiTの修了生に対して期待することを「従業員規模別」にみると(左図)、「**チームによる開発を経験していること**」、「**自主性・積極性が高いこと**」、「**先端技術について知っていること**」、「**高い技術力を身につけていること**」といった項目は、従業員規模の大きなIT企業ほど高くなっている。また、「99人以下のIT企業」では、「入社後すぐに即戦力として活躍できること」が最も高くなっている。

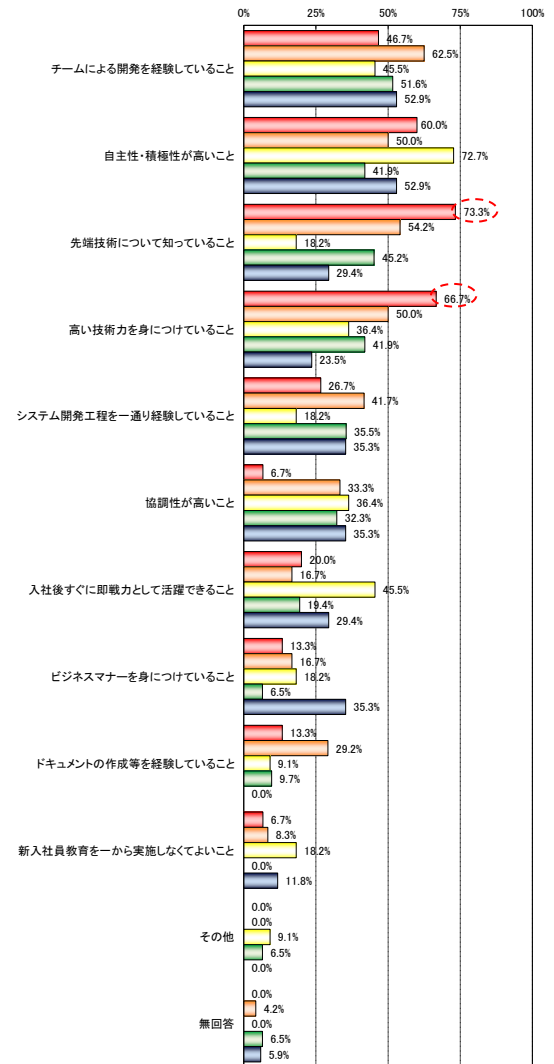
■ 「創業年代別」にみると(右図)、「**先端技術について知っていること**」、「**高い技術力を身につけていること**」といった専門性は、伝統的な企業ほど回答が多くなる傾向がみられる。

【問10】同封の第2期enPiTに関する資料を簡単にご覧いただき、第2期enPiT(学部生向けenPiT)の修了生に対して貴殿が期待することとして、以下のうち当てはまるものをすべてお選びください。

第2期enPiTの修了生に期待すること
【従業員規模別】



第2期enPiTの修了生に期待すること
【創業年代別】



■ 情報系の大学・大学院及びenPiTに対するご意見・ご要望①

【問11】 最近の情報系の卒業生をみて、大学教育に対して強く感じられる不満や問題点、今後のカリキュラムや授業内容へのご要望、あるいは、是非、大学で身につけてきて欲しいスキル・能力等へのご要望などがあれば、以下に忌憚なくご記入ください。

情報系の教育・カリキュラムに対するご意見

- 自分の興味のある分野についてはしっかり勉強されており、好奇心も強い方が多いという印象がありますが、協調性をもう少し育てておくのとより良い。
- ミドルウェアは日本が世界的に優位な分野であるが、学校側の理解が小さいのではないかと感じる。
- 基礎となるシステム工学の知識が不足している印象がある。実務で必要となる実践力を積むための基礎作り、土台固めをしてほしい。
- 情報系に限定せず、幅広い柔軟性のある考え方が出来る人が増えれば良いと思います。
- 自ら考え行動した経験を引き出せるようなカリキュラムがあるとよい。
- 情報系というと個別のプログラミングのイメージがあるが、社会人として基本的なコミュニケーションや仕事の進め方のベースとなる能力についても向上が必要であると感じる。
- 広く浅い教育だと感じている。プログラミングスキルは、専門学校出身者のほうが高い印象を受ける、全てを学ぶ必要はないので、基礎的なスキルはマスターして欲しい。
- 情報系出身であれば当然高いプログラミングスキルが「あるもの」と思っているが、近年採用活動の現場で学生から「プログラミングが得意でない」、「嫌い」と聞くことが増えており、困惑している。「苦手」は研修でカバー出来るが、「嫌い」はどうにもならないように思う。
- コミュニケーションスキル、積極性が不足しているように感じるため教育を強化してほしい。
- プログラミングや基礎知識を知識としてだけでなく、学外との連携や発信（産学連携、ビジネスコンテストなど）など、実践経験をもった学生が入社してもらえると立ち上げが早くなる。
- 近年の学生生活では、授業や経験の場が“与えられる”環境が多いため、受動的思考や行動を取る学生が多い。そのため、目の前にビジネスチャンスがあった場合でも能動的に動けず、誰かの指示を待つ傾向があるように感じる。座学中心ではなく、学生が主体的に動く授業内容を検討してほしい。
- 社会人の基礎力は教育して頂ければ助かります（学生→社会人のマインドチェンジ等）。
- 学外で活動している学生のほうが優秀に感じられるので、支援（例えば単位をインターン参加者に出すなど）があっても良いのではないかと感じる。
- 学生自身が「面白い」と思う分野、対象の多角的アプローチや、多岐に渡る興味対象の取得ができるような機会、情報の提示をしてあげてほしい。

■ 情報系の大学・大学院及びenPiTに対するご意見・ご要望②

【問11】 最近の情報系の卒業生をみて、大学教育に対して強く感じられる不満や問題点、今後のカリキュラムや授業内容へのご要望、あるいは、是非、大学で身につけて欲しいスキル・能力等へのご要望などがあれば、以下に忌憚なくご記入ください。

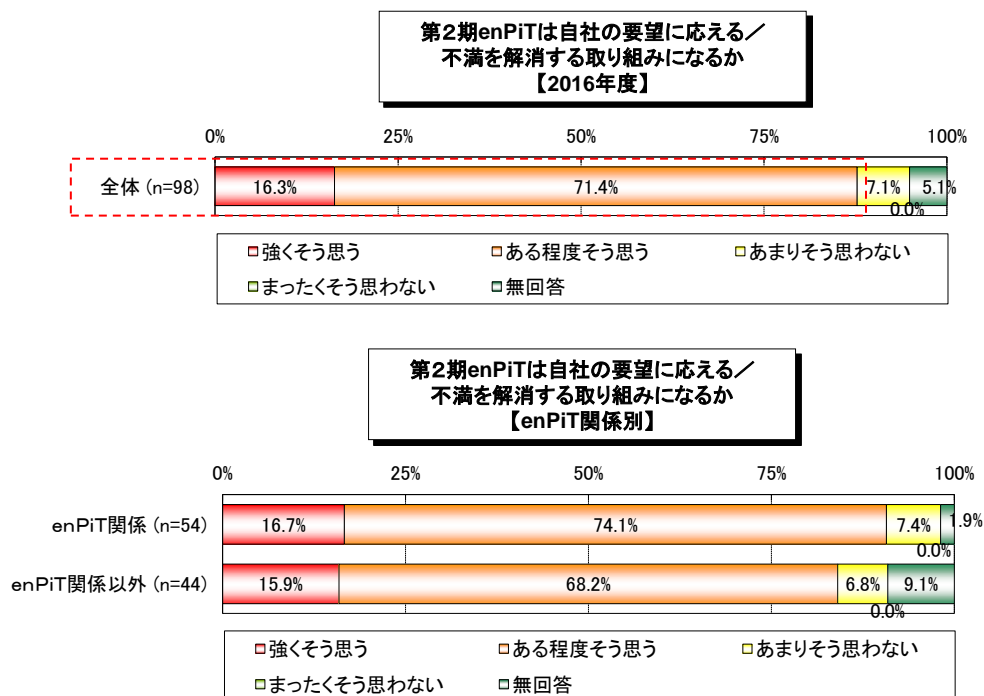
情報系の学生に対する印象・ご意見

- 情報系の採用については、今まで事務系のカテゴリに入っていたが、いわゆる情報工学を学んできた技術系の枠を設けてもよいという意見が社内であり、社内でも不透明である。ゼネコンでも情報系の学生は活躍できると訴求していきたい。
- 自分自身のことについて把握できておらず、業務や組織とのミスマッチを起こすケースが増えている。単なる“自己分析”ではない、研究活動を通じた自己理解が必要である。
- 組込みソフトウェア人材は自動運転分野において不足している印象がある。
- 好きな事以外に対してモチベーションが激減しがちな印象である。
- 就職活動については情報感が低く、将来のキャリアに対する考えを持っている学生が少ないように感じる。
- ものづくりに対して意欲をもった学生が減ってきているように感じる。
- 知識は持っている(授業で習ったことがある)という学生は多いが、実際に手を動して、アウトプットしている学生が少ないように感じる。
- 社会人として基本的なコミュニケーションや仕事の進め方のベースとなる能力についても向上が必要であると感じる。
- 新しい技術へのチャレンジをもっとしてほしい。
- 新しい技術・知見を大学等で学ばれており、知識は豊富にある。ただし、その知識をそのまま業務に生かせることは少ないこともある。期待するのは、既存業務をいかに新しい人材がマネージメントし、変えていくかだと考えている。そのためには、「分析力」、「創造性」、「論理的思考」を持った学生(人材)がよく多く当社を志望してほしい。
- 情報技術の応用に傾注し、基礎理論に若干の弱さがみられることがある。
- 仕事の目的や、何につながっているかを理解せず、仕事を自分事として捉える力が弱いと感じている。入社後の成長スピードに大きな影響を与えるため、大学時に心がまえだけでも身に付けてほしい。
- 当社では様々な専門分野が統合する事によって巨大で複雑なプラントを作り上げるので、入社後に学ばねばならない事が多い。新しい分野を自ら調べて身につけ続ける能力とスキルが要求されるので、その心構えを持って来て欲しい。
- 基礎的な専門知識の不足が目立つ。また、課題をこなすことに満足しているのか、自分の頭で考える力が弱い印象がある。

■ 第2期enPiTは自社の要望に応える／不満を解消する取り組みになるか

- 第2期enPiTは自社の要望に応える／不満を解消する取り組みになるかを尋ねた設問では、「**強くそう思う**」、「**ある程度そう思う**」と回答した割合が9割程度となっており、**第2期enPiTの取り組みも高い評価を受けている**ことがうかがえる(上図)。
- enPiT関係企業／関係以外の企業区分でも、いずれも8割を上回っており、enPiT関係以外の企業を含めて高い評価を受けているといえる(下図)。

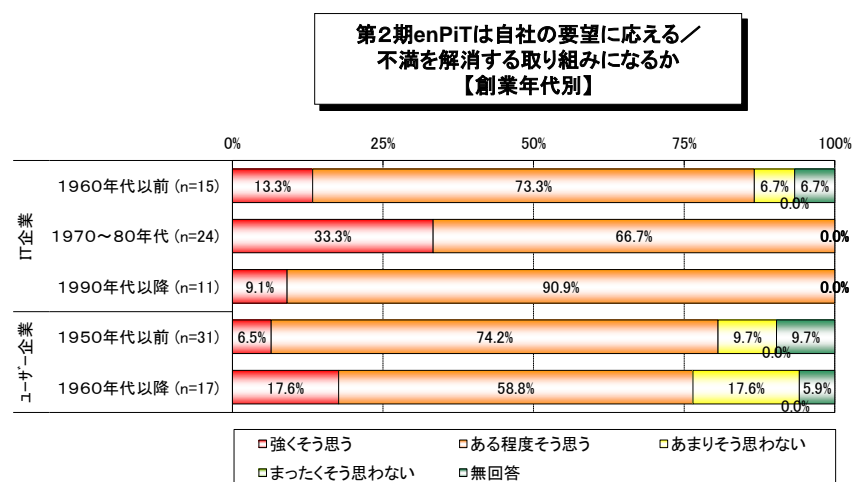
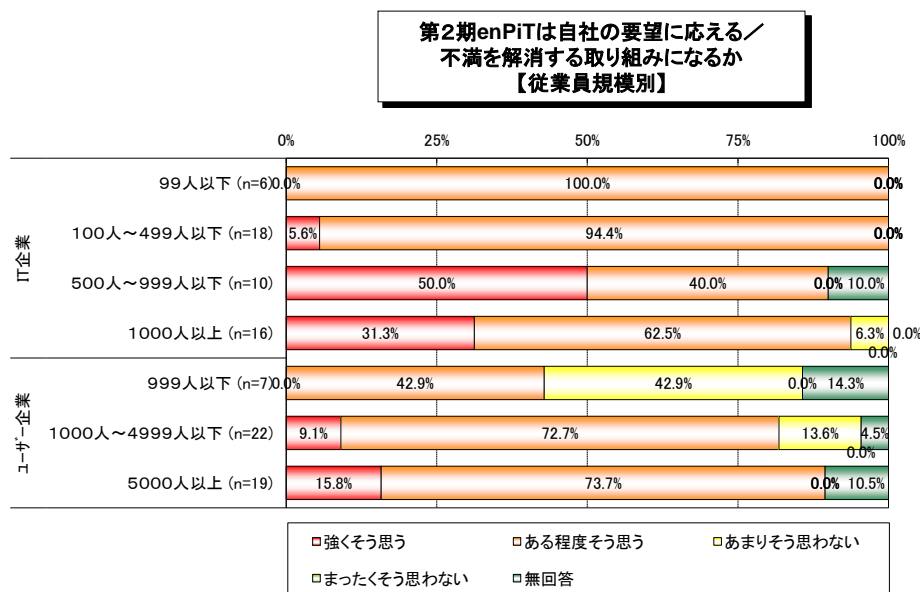
【問12】 第2期enPiT(学部生向けenPiT)は、貴社の要望に応える人材育成、あるいは、貴社が感じておられる不満の解消に向けて期待できる有効な取り組みになると思われますか。



■ 第2期enPiTは自社の要望に応える／不満を解消する取り組みになるか 【従業員規模別・創業年代別】

- 第2期enPiTは自社の要望に応える／不満を解消する取り組みになるかという設問を、「従業員規模別」にみると(左図)、IT企業についてはいずれも「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合が高い傾向にある。ただし、「999人以下のユーザー企業」では5割を下回っている。
- 「創業年代別」にみると(右図)、創業年代の新しい企業では「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答した割合が高い傾向があるが、「1960年代以前のIT企業」ではやや低い傾向もみられる。

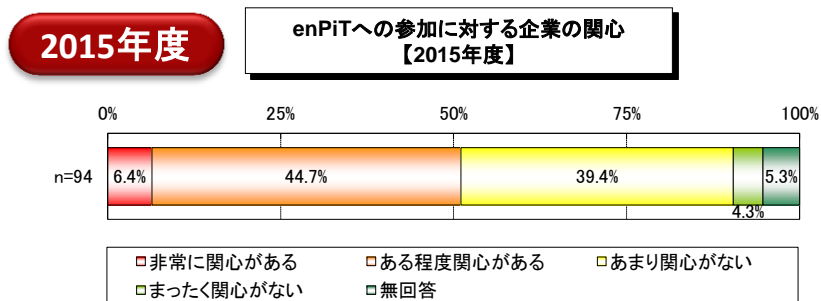
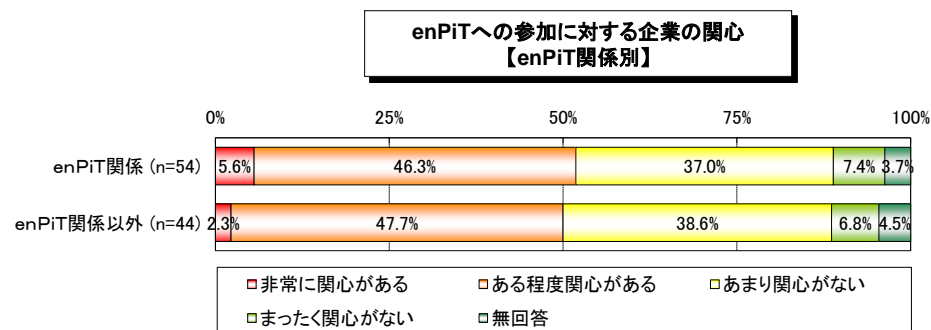
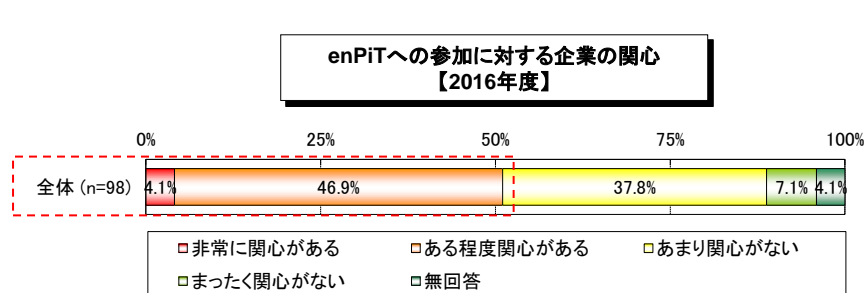
【問12】 第2期enPiT(学部生向けenPiT)は、貴社の要望に応える人材育成、あるいは、貴社が感じておられる不満の解消に向けて期待できる有効な取り組みになると考えられますか。



enPiT参加に対する企業の関心

- 情報系の大学・大学院による実践教育への参加に対して企業として関心があるかどうかを尋ねた設問では、「**非常に関心がある**」、「**ある程度関心がある**」と回答した割合が、**あわせて5割程度**となった(左上図)。2015年度の調査結果と比較しても、同様の水準となっている(左下図)。
- enPiT関係／関係以外に限らず、比較的多くの企業がenPiTへの参加に対して関心を持っている**(右図)。

【問13】 enPiTでは、実践教育にご参加いただく企業様を随時募集しております。このような実践教育への参加(企業講師の派遣等)について貴社(貴殿)は、ご関心をお持ちですか。

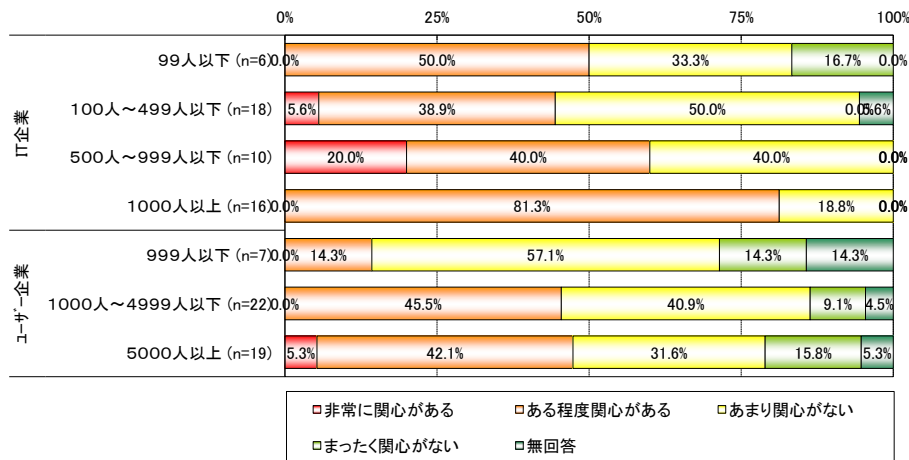


enPiT参加に対する企業の関心 【従業員規模別・創業年代別】

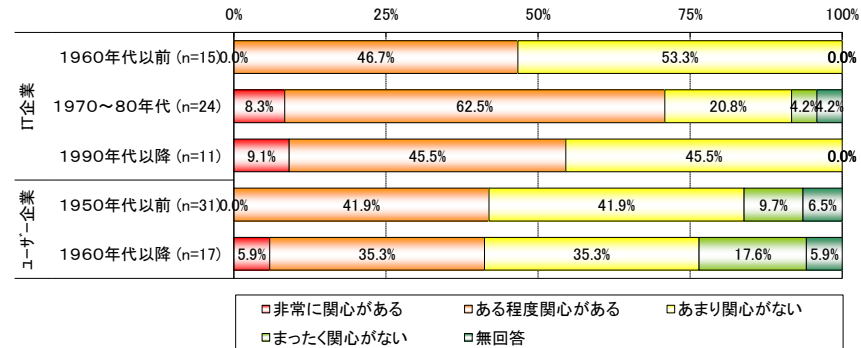
- enPiTへの参加に対する企業の関心を「従業員規模別」にみると、1,000人以上の企業では「ある程度関心がある」という回答が最も多くなっている(左図)。
- さらに、「創業年代別」にみると、IT企業では、「1970～1980年代」の企業が「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」という回答が多いという結果になっている(右図)。

【問13】 enPiTでは、実践教育にご参加いただく企業様を随時募集しております。このような実践教育への参加(企業講師の派遣等)について貴社(貴殿)は、ご関心をお持ちですか。

enPiTへの参加に対する企業の関心
【従業員規模別】



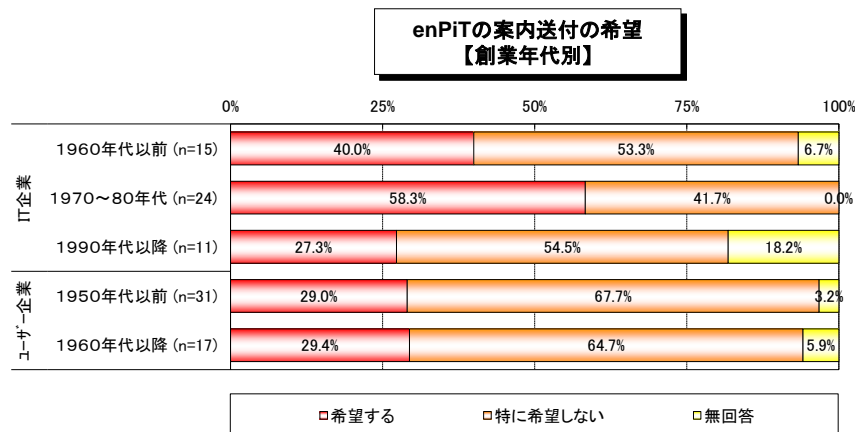
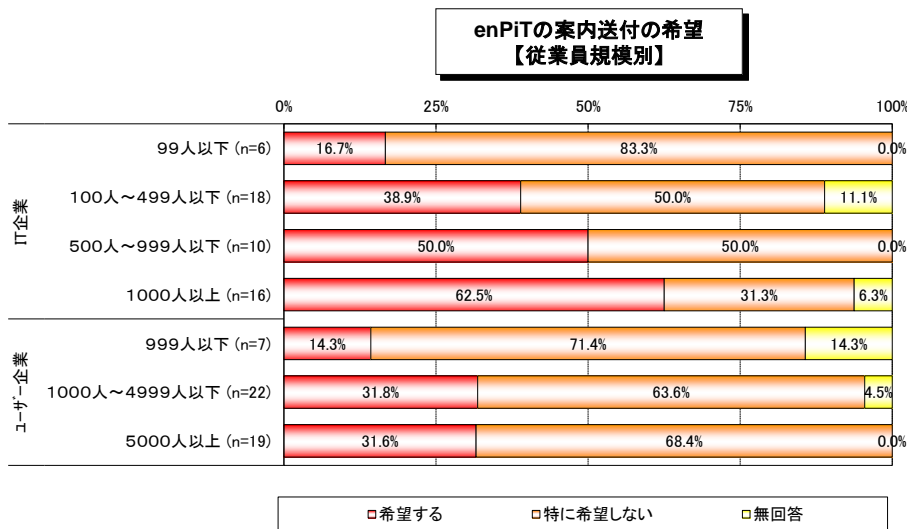
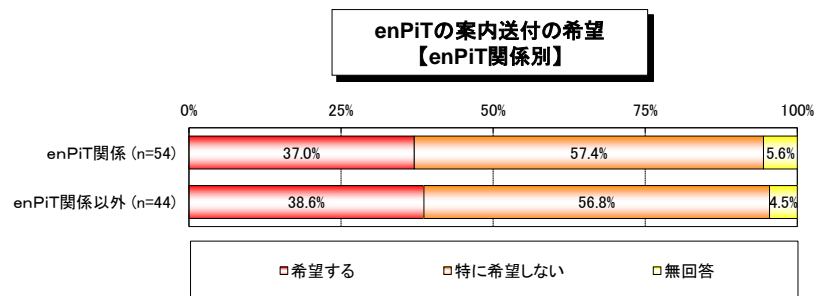
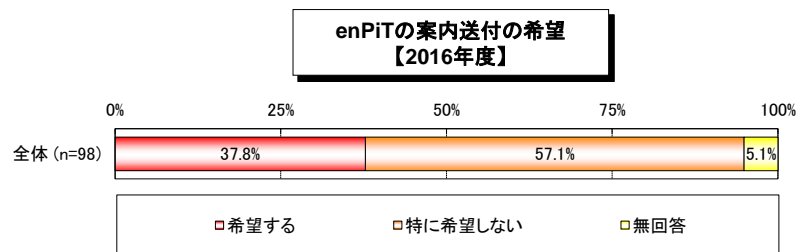
enPiTへの参加に対する企業の関心
【創業年代別】



非常に関心がある ある程度関心がある あまり関心がない
 まったく関心がない 無回答

（参考）enPiTの案内送付の希望

【問14】 enPiTでは、シンポジウムや報告会等の一般公開行事を開催していますが、こうした行事の開催案内の送付を希望されますか。





■ 企業向けインタビュー調査結果から①

enPiTに対する評価・印象

- enPiTのような、**高いスキルを持った学生が質・量ともに数多く輩出される取り組み**は、今後もぜひ積極的に実施してほしい。また、そのようなプログラムを受講する学生と交流できる場を設けたり、増やしていただけると、企業にとっては非常にありがたい。
- ITスキルもちろんだが、スキルだけでなくコミュニケーション能力等、**様々なスキルや能力を実践的に学習できるプログラム**は大変貴重であり、当社としても、このようなプログラムを受講した学生の応募があれば、ぜひ採用を積極的に検討したい。
- enPiTの受講によって、ITスキルだけでなく、チームビルディング等を通じて**コミュニケーションスキル**が身につくということであれば、当社にとっては非常に貴重な人材となり、当社のシステムエンジニア職として非常に活躍が期待される。
- 理系の学生の多くは、相対的にコミュニケーション能力の面で苦労することがある。enPiTのようにチームビルディングや様々な企業とのつながりを通じて得られた**コミュニケーションスキル**は、当社で活躍するための能力としても生きてくるはずである。
- **システム開発を含むものづくりに関心を持つ学生**が減っている印象を受ける。世の中が便利になったこともあり、ちょっとした不便や不備に気づかない学生が多くなっている。enPiT等の取り組みを通じて、そのような意欲のある学生が増えていくと良い。
- 個人での開発だけではなく、**チームでの開発**を、学生時代にぜひ経験しておいてほしい。企業での仕事は、チームでの開発が基本である。チームでの開発経験は、大学によってバラつきが大きいので、大学側でもぜひチーム開発を重視していただけるとよい。
- enPiTで培われた経験は、**エントリーシート上や面接時の話題として評価・注目される**のではないかと。サークルの体験などを強調する学生も多いが、そうした話題よりはかなり有益であるという印象を受ける。
- enPiTを受講しているからといって特別に採用することは現状では難しいが、当社が求める、「何事にも前向きである」、「困難に立ち向かう」という要件にもつながる重要な経験になると考えられる。



■ 企業向けインタビュー調査結果から②

enPiT2への期待

- 人工知能等の最先端のITスキルが今後必要になってくると考えている。当社においても、Fintech及びデジタル化に対応するために、次世代店舗に関する実証実験などを実施している。enPiTの実践教育を通じて、**最先端のITスキル**を学習した人材は、そのような場で活躍していただける可能性がある。
- 企業では、新しく何かやる場合には指示待ちでは何も始まらない。そうした**自ら仮説を立てて取り組む姿勢**は非常に社会人として非常に重要であり、ぜひenPiTなどの実践教育を通じて身につけてきてほしい。enPiT2は学部生が対象であり、大学院生とは、また状況が異なると思われるが、**受け身ではなく自ら取り組む姿勢は、学部生にとっても重要である**。
- 学部・大学院のいずれにしても、IT関連の技術をベースとして、具体的な**製品・サービスを企画できる人材**が今後さらに求められるようになる。ITに関する学習と平行して、マーケティングや製品企画等を学んでいる学生は、今後この業界では取り合いになるのではないか。enPiT2のビジネスシステムデザイン等のように、IT技術だけでなく**ITを活用した新しい製品・サービスの企画**等を大学時代に学習することは非常に有益である。今後は、そういったプログラムを受講した学生の獲得競争が起きると考えている。
- 当社としても、新しい製品・サービスを創る事業環境を社内に整備していかなければならない。現在のように、受託で与えられた業務をこなすのではなく、**自ら新しい製品・サービスを生み出す業務**の割合をもっと増やしていかなければならないという課題を感じている。enPiT2の受講生を含めて、そういった能力・スキルを持った学生に対しては大きなニーズがある。